

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	谷本 仰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学 I	1	前期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>対話を大切にしています。</p>
---	---------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>テストと、授業毎に回収するアンケート、授業評価アンケート、また授業中の対話そのものによって。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容的に妥当であると考え、この大学の建学の精神、礎や柱そのものとしてのキリスト教を学ぶこの授業で目指されているのは、知識の習得や理解だけではない。聖書・キリスト教が語ってやまないメッセージそのものを分かちあうことこそ、この授業の核心である。希望、愛、いのち。諦めないこと。自分を大切にすること。他者を大切にすること。それは「理解」し「知る」だけでは不十分である。それらは経験されねばならない。そしてそれらは学生たちのいのちそのものを少しでも支えるものであってほしいと願う。学習到達度の自己評価を超えて、この授業を通じて分かち合われたものが、「種」のようにひとりひとりのいのちに満たされていくことを願っている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特に大きな改善課題はないと考える。クラス毎に、学年ごとに、個性があり、違いがある。その個性や違いに応じながら、今後も授業を進めていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生たちと共に過ごす毎授業はとても楽しく、刺激的で、自分自身にとっても学びに満ちていました。感謝。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1・2・3・4	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機では、「単位数を確保する」を挙げたものが60%、「関心のある内容である」を挙げたものが35%であった。すべての受講者に初めから積極的な受講姿勢を期待し難い状況の中で、新聞記事をはじめとして、できるがぎり最新の情報を使いながら、ジェンダーが現在の女性の生き方に係わる大切な問題であることをつかめるように心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は77で、秀が18%、優が23%、良が32%、可が27%で、拡散した。到達度自己評価では、全ての項目で中央値前後であるが、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「自分なりの目標を達成した」、「職業選択の参考になった」の項目が高めだった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、総合人間科目の一つで、DP1、DP2、DP3に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価で全項目が中央値前後であったので、内容的妥当性は一応あったと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使っ
て、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業の中で使用したキーワードについて説明させるレポートを課したことは、理解を
整理する上で有意義であった。また、アメリカの「中絶論争」について考えさせるレポートを課したことも、思考を深める上で有意義であった。しか
し、予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、教員には、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義を通して、ジェンダー問題に関して基本的な知見を与え、関心を深めるという課題は、一応達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工
夫については、なお改善の余地が大きい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	1・2・3・4	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①配当学年は1年生から4年生であり、今期は履修生の全員が2年生であった。1年次のチャペルで讃美歌に親しんでいたため、出席カードの裏に好きな讃美歌の番号を毎回記入するなど、讃美歌への関心が高かったようである。また、受講動機を見ると、「関心のある内容である」と「単位数を確保する」の選択率がどちらも40%であり、音楽文化に関心を持つ学生が積極的に受講していることを示唆するものであった。できるだけ、学生のニーズに合った授業内容を提供していくようにしている。②毎回の講義内容をどのように理解したか、および感想を記入するよう新たに指示した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は75点であり、再試対象は0名であった。理想的レベルに達したものは3名であった。(理想的レベルは80点以上に設定)。学生による授業評価において、到達度自己評価の平均値はほぼ4.0であったことから、教育目標はほぼ達成されたと考える。履修者の多くがキリスト教音楽について、新しい知識と理解を獲得し、学生自身の達成感に結びついたと考えられる。また、1年次のチャペルへの参加経験より礼拝と音楽の結びつきを実感できたことも達成された要因であると考え。今後は意欲関心をさらに高めるため、工夫をしていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性：本科目は、学科横断的科目であり、一人ひとりが異文化に意欲関心を持って、基礎的知識を獲得し、音楽文化を多角的に理解し、総合的・分析的視点で学ぶことができるよう工夫しているため、内容的には妥当であると考え。②DP、行動目標からみでの内容的妥当性：昨年度に比べて、この講義に関心を持つ学生が増加し、達成度自己評価も比較的高かった。③まとめ：以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価における授業の質評価の平均値は、4.1-4.4点であり、授業の内容やねらいが学生に伝わったと考えられる。昨年度、「ノートの記述が多く大変だった」との意見が出されたため、配布資料の内容を工夫した。その結果、「授業の質評価」の全体平均値が昨年よりも高くなったと考えられる。引き続き工夫および改善を行いたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

西洋音楽の歴史的概観を捉え、基礎知識の獲得については概ね達成できたと考える。知識理解と関心意欲が相互に関連して向上するよう、昨年度課題とした、知識および思考の能力を養うこと、および授業内容の充実を図ることは引き続き改善していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①必修科目であるため、受講動機は100%である。 ②8回の講義を、外部講師を含むオムニバス形式で行った。その中で担当したのは、4月25日(月曜4時限目)の1コマで、英語学科長と観光文化学科長が分担した。持ち時間はそれぞれ40分程度であったが、内容は「教育目的」であったため、それに応じた準備をした。 ③具体的には、a. 英語学科の教育目的、b. 本当のコミュニケーション能力とは、c. 新卒採用に関するアンケート調査結果、d. 異文化理解、e. 自分探し、f. 人文学部(受講対象者は英語学科・観光文化学科1年生)の教育目的などに関する準備をした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①46名の履修者のうち、最履修生が1名含まれるが、出席率は0%であった。その学生を含めた出席率は88.9%であったが、除けば91%になる。しかしながら、昨年度の97.7%と比較すると、かなり低い数値となった。 ②3度のレポート提出(4/25、7/11、7月下旬)に関して、2名が目的を達し得なかったが、その他の受講者は合格できた。レポートの内容は以下のとおりである。 (1)「本日の講義を聴いて、その感想を書きなさい」 (2)「本日の講義を聴いて、その感想を書きなさい」 (3)「感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成のため、大学時代に学ぶべきこと」 ③評価の割合は、(1)・(2)が各15点、(3)が60点、出席率10点とした。 ④(1)・(2)は授業終了時に回収したが、(3)は後日提出となっていたためか、内容的に充実しているものが多かった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 総合人間学概論に関する英語学科の到達目標は4項目挙げられているが、合計8回の講義を通じて、すべての分野が総合的にカバーされており、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 英語学科DP1-1に関しては、第1・2・3・6回目、DP2-1に関しては第4・5回目、DP3-1は第7回目、DP4-3は第8回目の講義がそれぞれ該当すると判断できる。</p> <p>③以上から、内容的妥当性には問題ないと考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①割り当てられた時間が限定的であったため、授業の進行は講義形式になるのはやむを得ない。さらに講義の最後にレポートを書かせ、提出することになっているため、受講生は授業を聴くための集中力は持っているように感じた。
- ②予習・復習時間で0回が8割弱になっているが、毎回異なるテーマの講義であるため、やむを得ない状況であろう。
- ③学習量の評価(4)の「授業の課題以外に学習していない理由」の欄に、15件(昨年は13)の記述が見られた。その中で複数回答として出ているのは、「何をしてよいかわからなかった」・「時間がない」の2件であった。
- ④シラバスを参考にしたか否かは、昨年同様、ほぼ半々の結果であった。
- ⑤図書館の利用は、昨年度と同様、本科目に関してはほとんどなされていない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①オムニバスの授業であるが、講師の選択(特に外部講師)と講義内容が適切であれば、受講生にとっては、人間としての基礎教養が養われるよい科目であると判断している。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
行動科学	1・2・3・4	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容の妥当性については、受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかという方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに答える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学	1・2・3・4	前期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握させることに重点を置いた。受講の動機（34人回答）が「関心があって受講した」と答えた者が21%で、その他は「単位数の確保」と答えた者が44%、「資格に必要」と答えた学生が29%で、7割の学生は興味が充分でないも関わらず選択していた。</p> <p>健康に情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。</p> <p>授業計画では小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストは1週間以内に採点結果を各学生に示した。学生は小テストに出る問題を推測しながら予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、小テストのための復習をすることが当たり前のこととして定着していったように感じられた。それは1度目の小テストが終了した頃からクラス全体に予習復習が態度として表れたと感じられた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された		達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は73点であり、再試対象は2名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは15名と、問題の難易度から言っても予想以上に高かった。「目標達成できた」と答えた学生総数は36人(36人中)で100%という高値となり、学生の達成感と満足感が良いと考える。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は36人(100%)、「事象理解の視点を得た」と思う者は36名、「課題検討力」を得た者36名、「判断力を得た」36名、「学習意欲が得られた」36名、「必要技能を得た」36名、「表現力の向上」36名、「倫理規範獲得」36名、「職業選択の参考」35名と高い自己評価を持たすことができたと考える。また思考判断に関する質問は18(94%)で、意欲関心も高く19人(100%)と高値を示した。英語学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られているようである。今後、関心と成果のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れたい。</p> <p>また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には文系の学生にも妥当な内容であったと考える。</p> <p>② D P、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から、方法的妥当性は十分あったと思われる。</p> <p>③ 「受講動機」が曖昧な学生が多かったが、「学習到達度の自己評価」は十分得られ、英語科の学生に妥当な内容であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、予習を全くしなかった者が10名（36名中）、復習をしなかった者が10名と予想より多かった。シラバスを参考にしなかった者が17名（36名中）、授業計画を立てなかった者24名、図書館、データベース、インターネットの利用者は5～6名に過ぎず、予習・復習の時間が想定より少なかったことは反省点である。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。配布物に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習 I	1・2・3・4	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量との関係が理解できるように努めた。⑤健康科学実習 I では、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは24名と予想以上に多かった。受講動機は「資格取得に必要」の学生が52%（全21名中）、「単位数確保」は14%であった。しかし「関心がある」学生は僅か14%であった。目標達成できたと答えた総数は27人（27人中）で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は27人、「事象理解の視点を得た」と思う者は26名、「課題検討力」を得た者27名、「判断力を得た」26名、「学習意欲が得られた」26名、「必要技能を得た」26名、「表現力の向上」26名、「倫理規範獲得」26名、「職業選択の参考」23名といずれも高い自己評価を持たすことができたと考えられる。欠席する者は多くなく全員が積極的に受講していたと考える。今後、関心度に関わる数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					
* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達つくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1・2・3・4	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生には一般教養科目としての科目の位置づけと科目概要に加え、新たに学科のAP、CP、DPについてパワーポイントおよび印刷物を用いて詳細に説明した。</p> <p>②本科目は理科系科目であるため、学生には興味関心をもってもらうことを一番とした。講義では身近な生活のなかで気づく”体のしくみと異常(疾患)”に焦点をあて、事象をだしながら講義を行なう工夫を取り入れた。</p> <p>③受講生が1～4年生ということから学年間に差がでないよう、講義はできるだけわかりやすい言葉・表現を用い説明するよう心がけた。また、講義内容が理解できているかどうかを確認するため講義途中で学生に質問を投げかける、質問を受けるなどの機会を作った。</p> <p>④昨年の課題としてあげた学習時間については、レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書・インターネット活用を積極的に促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①総合評価の平均値は75点(±10)であり、受講生全員が標準レベル(60%以上)に達していた。理想的レベル(80%)に達したのは40%だった。</p> <p>②”知識理解”の達成度は80%で、学生の”知識理解の到達度自己評価”の平均値3.5”、”知識を確認、修正、新たに得ることができた3.9”、”事象を理解する視点や考え方をえることができた3.7”であった。また、専門分野に活かす姿勢・態度の達成度は、80%が理想的レベルに達しており、学生の”専門分野について学びを深めたい”とする自己評価平均値が3.7であることから本科目の目的は達成できたと思われる。</p> <p>③授業の質評価は、”課題レポートの評価基準の明確さ3.9”、”質問を受け付け、答える機会がつけられていた3.8”と、課題については文書を配布し説明したこと、また、講義中に理解度を確認しながら進行させたことが良かったと思われる。</p> <p>④学習時間については、1回以上の予復習時間をもった学生が70%、2回以上が40%、4回以上が15%であった。しかし、図書・インターネットを利用した学生が40%にとどまり、60%の学生が図書館を利用していないことが明らかとなった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり、選択科目である。一般教養と専門領域の基礎となる知識を培う位置づけの科目で、学生も一定の成績をおさめている。学習の到達度、達成度から内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 人文学部の学生にとり理科系科目ということで苦手意識が強いと思われるが、成績評価から知識理解、専門分野に活かす姿勢・態度は、全員、標準レベル以上の成績をおさめている。内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の自由記述から”わかりやすい説明であった”と記載されていた。次年度も難しい内容であればあるほど、わかりやすい表現をするよう心がけた。また、図書館利用については、レポート作成をおし図書館の利用をうながすよう指導したが、60%の学生が利用していないことが明らかとなった。次年度は、図書館を活用する意義を学生に繰り返し説明し、図書やインターネットの利用を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

一般教養と基礎知識を培い、専門に活かす態度を養うという目標はほぼ達成できた。しかし、受講生の学習量は改善されたものの、図書館の活用が充分になされてない。次年度は図書館スタッフと連携し、図書館活用の意義を学生に周知させるなど図書館利用率アップに向けた改善に取り組みたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国の社会と文化	1・2・3・4	前期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生から4年生までの総合人間科学の授業であるので、授業の最初に中国への理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。</p> <p>②国際的視野に立って中国のことを幅広く学び、考えながら、異なる社会文化に触れていった。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。</p> <p>③中国社会文化に関心を向上させるために、10回目にレポートを提出してもらっていた。</p> <p>④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の意欲を高めるためである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは35名となった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的に組み込んで学習はP・Cで調べたり、学生のそれぞれの関心問題—中国の科学・教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「なにをすればいいかわからなかった」、「特にすることがなかった」などの自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。次年度に向けて明確に指示・指導しなければならぬと反省点が考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性</p> <p>本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社會文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料しかなかったから、何をすればいいか分からなかった。特にすることがなかった、等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲をより具体的に示したうえで、学習時間・学習量・方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

総合人間科学にあたる本科目の位置づけから教養教育グローバル化社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。中国社会文化を学習すると同時に、関連する日本の社会文化などを理解してもらうこと。
以上から毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	1・2・3・4	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>経済学を学ぶ過程で得ることができる論理性に重点を置いて、講義を計画した。去年のアンケートにおいて、ゲーム理論等の部分のニーズが多かったことから、その部分を中心に講義を再構成した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された		どちらともいえない	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>こちらが想定したよりも、理解度が低く、成績分布は悪い方に歪んでいる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>ゲーム理論という近年の経済学の中心的な内容を伝えることで、新しい知識の提供をしている。また、ゲーム理論を学ぶ過程で身につくと考える論理性により思考判断が向上される。内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義の内容が高度すぎた可能性と問題演習を少なくしたことに問題があったと思われる。できるだけ、学生の理解を深めることができるように、講義の進め方を変更したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義したゲーム理論やマッチング理論は、論理性を養うのには最適な科目だと思われる。また、これらの科目は応用範囲も広い。できるだけ、学生の興味に合うように応用して、提供できるように努力したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	福田 達也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学概論	1・2・3・4	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生が板書をノートにきちんと書き留めるように、あえて配布資料・プリント等の厳選した。そのため、毎回のように講義に出席し、説明を漏らさずに聞いている学生と、講義中の説明等を聞いていなかったり、欠席が多い学生との間に、講義内容の理解に大きな差が生じたように感じた。以上に、学生の学習準備性については、講義の予習よりも毎回の授業の復習を行うという傾向が強いのではないかと推断する。受講動機については、ほとんどの学生が単位数の確保のためと回答しており、法学等に興味を抱いて履修する学生が少数であるので、今後は履修した上で法律学に興味を持ってもらえるよう工夫を施していきたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験の成績については、全体として高得点者が多く、上記の目標はほぼ達成できていると思われる。しかし、学生による授業評価によると、到達度自己評価の全ての項目において、多くの学生が③の「まあまあそうだと思う」および④の「わりにそうだと思う」を選択しており、試験の成績とは別に学生の授業内容の理解に努力が必要であると感じた。学習量の評価については、0時間と回答する学生が多いので、今後は授業時間内だけでなく授業時間外学習をしなければならないよう工夫を施していきたい。さらに、授業時間外学習時間が少ないことと併せて、図書館やインターネットの活用についても、利用していないと回答する学生が多かったので、上と同様に今後の課題としたい。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、ほぼ問題ないと思われる。法学は基本的には、まずは制度の内容や基礎理論の理解が重要であり、知識・理解の面が極めて重要であると考えられるためである。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進行方法については、現在のところは変更を検討していない。上記3においても触れているが、毎回授業の概要を示したプリントの配布をすることの意義については理解しているが、これにより授業の際の説明を不十分に聞いてしまう学生が発生するのではないかと危惧している。概要プリントがない分、毎回の授業の説明をきちんと聞いておかなければならないという意識を学生に持ってもらえたらと考えている。現在のところは、試験の全体的な成績を見てもわかるように、このスタイルである程度は理解が高まっているので、今後、全体的な成績がさがるようであれば、概要プリントの配布も検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

上記4においても触れているが、学生の授業時間外学習をいかに確保するかが今後の最重要課題と認識している。適宜、課題を課す等、積極的に取り組んでいきたい。また、就職活動に対する配慮や休講についての連絡等についても検討をしていきたい。また、受講生が教室の後ろに集中して座っているため、座席指定についても必要に応じて実施していきたいと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	1・2・3・4	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機の88%が単位数の確保であり、これは例年と同様であった。テーマが遊び文化に関連しているため、その半数近くが内容にも興味を持っていた。教養科目であるため特定の資格取得に向けた知識技術の習得を目的としていないので、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。</p> <p>そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変わってきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>平均点は60.5点、合格率は66%であった。基本的に知識理解が達成目標となっているが、平均点が70点程度を期待していたがそれには届いていない。合格者のうち、秀に相当する者は1名であり、優はいなかった。つまり合格者の知識理解のレベルもそれほど高くない。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の理解が不十分であった理由はいくつか考えられる。ひとつは歴史的な事象に関する基礎的知識の不足である。江戸時代の遊びについて解説するために、江戸時代とはどのような時代であったのかということから始めなければならない、本来の授業内容を圧迫する原因となるだけでなく、学生の理解の焦点がぼやけてしまう結果にもつながっている。
もうひとつの理由に、具体的イメージができていく学習内容についての理解が不十分であることが挙げられる。
これらの問題への改善方策として以下の2点が考えられる。(1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

全体の平均点を上昇させることと、秀と優の学生割合を増やすことが今後の課題である。そのためには学習内容への興味関心の深まりが不可欠であり、授業内容が面白いと感じることができるものへと改善する必要がある。また、どのような形で知識の定着を確認するのかという点についても、授業を通じて学生に理解させ、アウトプットと結びつけたインプットができるよう指導したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人権と社会	1・2・3・4	前期	選択		7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①6名の受講生のうち秀が4名、優が1名であり、非常に高い評価を与えることができた。受講動機は60%が「単位数確保」であったが、33.3%が内容に関心を持っており、おそらくこれらの学生の影響が学修意欲に結びついたのであろう。</p> <p>②随時ディスカッションを取り入れたが、議論は活発であった。</p> <p>③担当教員への意見として「授業が楽しかった」「わかりやすかった」「初めて知った知識が多かった」というものが出てきており、興味を喚起したことと、「この授業を受けなかったら人権についてこんなに考えることは無かった」といい自由記述は大学の講義としての一定の役割を果たしたのではないと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①学生は7名であり、秀2名、優3名、良2名であり、まずまずの成績ではあった。85.7%が単位数の確保を理由にしていることから当初は学修意欲に問題があったかもしれないが、結果的にはよく勉強してくれた。</p> <p>②ディスカッションなどを取り入れてみたが活発ではなかった。</p> <p>③「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.1ポイントであり、他の項目でも自己評価は高い。感想としては黙々と学ぶのが得意な学生が多かったと思う。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>もとい受講動機が単位取得という消極的な理由が多かったが、結果的にはいい自己評価を得ていることから総合人間科目としては意味のあることと思う。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

全体的に少人数であったので随時改善を重ねながらやっていくことになる。また、講義の密度にばらつきがあったり、新しい課題も出てきているので、シラバスの改善を計りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

例年に比べて学修意欲に課題はあったものの、双方向性の授業を重ねることでそれなりの成果を上げることができた。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語 I	1・2・3・4	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>志望動機によれば最も多かったものが「関心のある内容である」64.3%であり、初回授業の調査でほぼ全員がフランス語に初めて触れると回答したことから、未知の語学であるフランス語に対する興味・関心・期待の高さが伺えた。その他の志望動機は「単位数を確保する」28.6%、「資格取得に必要である」14.3%だった。本年度よりコミュニケーション・アプローチを念頭に置いた教科書を採用し、班活動によってフランス語を構造の面から知的に理解することを重視した。今年度は受講者数が多く、授業中に個別対応しにくいことが予想されたため、質問や要望があれば自己評価シート（ポートフォリオ）に書き、次回授業時に全員で共有するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は83点（±29.5点）であり、再試対象は0名だった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベルの80点以上に達したのは14人中9人（うちS評価5人、A評価5人）であった。昨年度、平均値を下回るC評価（60点台）に該当するのは25%だったが、今年度は6%（15人中1名）と成績の底上げを図ることができた。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」に関しては96%、DP3「意欲・関心」100%、DP5「技能・表現」96%という結果だった。学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは90%であった（昨年度は72%）。語学は毎日の積み重ねと自覚していたことが伺えた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目はカリキュラムマップ上の「総合人間科学」の「国際社会と現代」であり、総合人間科学のCP「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす科目」という観点に相違なく、学生は一定の成績を収めていることから、内容として妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DPの観点では、全般的評価に当たる「自分なりの目標を達成した」の質問に「まあ達成できた」～「大いに達成できた」と回答したのは93%であることから、内容として妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、おおむねどの項目も評価は高かった（平均値は4.0から4.2）。グループやペアで話し合っ答えを導く協同学習を主体とし、昨年度と比べさらに会話やコミュニケーションを重視した授業計画につとめたことが高評価につながったと推測する。合間に挟んだフランスの音楽や映像視聴も好評だった。一方で、授業の課題以外に学習に取り組んだのは33%であった。身近な事柄を表現できるよう、日常的にフランス語を使ってみることが語学力向上のカギだという基本的な考え方をもっと広める必要があると感じた。来年度はより効果的な教科書の選定を行い、自習に効果的な参考書やサイト、フランス語検定、フランスに関する図書の紹介に努めたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合人間科学のCPに合致する協同学習の結果、高い自己評価が得られ、一定の成績を残すことができた。受講者数39人という、語学のクラスとしてはやや多い人数ではあったが、協同学習によって個々がさまざまなエクササイズに主体的に取り組めた。今後も教員が一方的に「教える」のではなく、学生同士で「学び合う」授業スタイルを徹底させていくことが望ましい。また志望動機の調査で表れた「関心の高さ」を、半期を通して、その先もいかに持続させていくかにも留意したい。そのために、フランス語を「遠い言語」とせず、授業外でもっとフランス語に親しめるよう、魅力的なコンテンツを利用させるなど、教科書だけにとどまらない学習方法を提示していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語 I	1・2・3・4	前期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語 I の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の53.7%を除いて、③「関心のある内容である」は34.1%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてももう少し考慮していく必要があると考える。3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場を増やしていくことができるように工夫したい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>1. 最終的な成績の平均値は「82.1点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.8点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点5.0点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語Ⅰは選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	1・2・3・4	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。最初の講義で行ったアンケートで（学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施）「新しい言語に触れてみたい」や「今後の仕事に生かせそうだから」、「韓国旅行の際便利そう」、「韓国ドラマを字幕無しで見たいから」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。</p> <p>○受講姿勢に差がある50を超える受講生全員（観光学科との合同授業）が興味を持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績平均は78で理想的レベルに近づけることができた。また全員落第することはなかった。授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」の評価が最も高いことに注目したい。韓国語をこの講義で初めて習う学生が大半だが、その多くが当初期待した目標を達成したことが分かる。他にも「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」や「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の設問で高い満足度が見られたが、これは韓国語学習で応用の幅が広がったと言えよう。</p>					
<p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように、第二外国語として目標とていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。</p> <p>DP 授業中学生達から受けた印象はもちろんのこと、到達度自己評価では授業で取り上げる機会が少なかった項目以外は高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。</p> <p>まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初級の語学という授業の特徴上、学生が意見を述べたり、図書館を利用しリサーチする機会が少ない。代わりに基礎的な会話の場面を増やし講義を聞くだけではなくコミュニケーションを取る機会を作った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして語学以外に「韓国」そのものに興味を持つ学生が増えて、狙って以上の成果を挙げられた。来年度も引き続き学生と関連のある韓国の話題を取り入れながらよい成果を挙げたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論 I	1	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今学期は受講生8名で、昨年度の2名から大幅に増えた。その環境下で、できるだけ学生と会話する時間を取るように努めた結果が、アンケート調査の点数に表れていると思われる。「教科書の語がみんなが分かっているで書かれているので、分からないところがあるとき、理解できないこともありました。」という学生からの自由記述に関しては、「分からないことがあるときは、〇〇で調べれば理解できるので、それを活用してください」という具体的指示を、次回からは出そうと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していいと考えている。宿題への取り組み方の指示を、次回以降はより明確にしていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Public Speaking I	3・4	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>In the first semester students wrote their own speeches and preformed them without difficulty for the most part. Students had enough time to prepare their speeches. There were students who didn't e-mail their speeches in a timely matter. The students mostly performed at very different levels, from low to very high. Students made positive coments on the evaluation sheet forms.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were able to state their own opinion, brainstorm their ideas, write a speech and deliver their speech in class. About 80% of the class could do the task but some students didn't complete task or come on time.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were able to state their own opinion, brainstorm their ideas, write a speech and deliver their speech in class. About 80% of the class could do the task but some students didn't complete task or come on time.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Again the student comments I received were quite positive. I should have been more strict with time deadlines. Students wait till the last minute to send their speeches and that results in no practice time. I have been teaching this class for twenty five years so I know pretty much understand and can handle the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I don't envision any major changes in the Public Speaking class. I would have liked to focus more on fluency as the final goal of this class. If students can speak in good English for three minutes, they can gain the confidence and skill they need to speak fluent English

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	3・4	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は初めての担当だった。科目名は、「入門」であるが、単位を得た受講者のおそらく四分の三以上は英語圏へ半年以上の期間の留学経験者であり、「入門」と冠する科目名では、基礎的すぎるようであった。但し、それは英語については言えることであり、「ビジネス」の分野では「入門」レベルから学ぶ意義はあった。②受講者が少ない授業(履修登録者11名、そのうち放棄者は3名)であり、ビジネス面についての基礎知識を強化しながら進めた。これは、アンケートの受講動機が、単位数を確保する(85.7%)に次いで、関心のある内容である(71.4%)であることから、妥当であると考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な成績は、A～Gの評価では、A(秀)6名、B(優)が2名だった。具体的な達成の目安は、英語面とビジネス面で分かれている。理想的なレベルの「1. ビジネス英語における基本的な単語や表現などを理解し、それらを迅速に口頭もしくは文書で適切に表現できる」は、主に英語面のことであり、達成できた。しかしながら、キャリアがキーワードとなるレベルでは、標準的なレベルの「2. 自己のキャリア形成を意識しながら、ビジネスを取り巻く社会および経済環境の変化に関心をもつことができる」が、弱かった。これは、この科目だけではカバーできないビジネス教養、もっと広義では新聞・雑誌、テレビ・ラジオのニュース等を利用することで得られる教養を必要とする項目であり、授業だけでは十分には達成できなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業評価の記述では、1. 覚えたところをしっかりとすることに集中した。2. オーディオを聞いた。(出版社がテキストの音声Webで公開していることを示す。3. 楽しく中身を学べました。以上のようにあることから、自主的な取り組みが確認された。②DP1(知識・理解)は、英語面については、試験・小テスト、通常の授業でのやり取りで十分であることが確認された。DP5(技能・表現)も日頃の授業とその他の提出物(授業前の下調べの課題)で確認された。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

①単位を得た学生たちの中には、TOEIC840以上の者もいた。英語自体については非常に理解が進んでいた。但し、事前にそのような情報は一部得ていたが、自分の学科ではない学科での初めての専門科目であり、学生集団の属性を十分に理解しているわけではなかった。別の履修者たちに同名の科目を後期に開講することもあり、中身がかぶらないようにするために、ぎこちない授業進度となった。次年度以降は、本年度の体験をベースに受講生にふさわしいテキスト選択を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①自分の学科ではない学科の専門科目では、学生の属性がわかれば準備が効率的にできる。 ②優秀な学生たちであり、目標は総合的に達成された。英語についてはもっと高いレベルの内容のものも教材に使えたらう。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
同時通訳演習 I	4	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本クラスは、英語通訳演習を受けた後に受講するクラスではあるが、今期から初めて受講するという学生が多く、そのほとんどが留学経験者であった。授業内容の概要を説明するために、課題の取組み方、学期末に提出するもの、期末試験についてA4一枚にまとめ、学期を通して参照するように促した。質問も含め、積極的に英語で発言するように促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		概ね達成された	概ね達成された			概ね達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>7名のうち、新たな視点を得たと感じた学生が「わりに」1名と「かなり」5名で8割強が概ね達成したと感じたようだ。学びを深めたいと感じたかについては「わりに」2名と「かなり」5名となり、全員が意欲的に取り組めたようだ。自由記述を見ると、初めての学習メソッドに当初は戸惑ったが、だんだんと英語力がつくという実感を持ったという記載があった。そのような実感を大切に、今後も知識・理解力および思考力を強化するための努力を行っていききたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。今期は積極的に英語で発言するように求め、その要求に応えることができるクラスであった。一方、留学体験のない学生にとっては「授業スピードが早く」感じたようだが、最終的には「目標を達成できた」という感想が書かれていた。全体のバランスに配慮しつつ、各受講生が適切に挑戦できるクラス運営を心掛けていきたい。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「実践的通訳訓練をもっとしたい」という希望が2015年の前期にあり、教材と通訳の実戦訓練をいかに融合していくかを模索した一年であった。そのため、教材の締めくくりのアクティビティーとして「ペア通訳」練習を行った。今日学んだ内容と自分の知識や感想を織り交ぜて1～2分のスピーチを日本語で行い、それをペアの相手が英語に通訳する。これは、受講生にとっては大変な作業ではあるものの、うまく教材の表現を使いながら、「自分の言葉」として取り込めるよい機会となった。このような工夫は今後も続けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学習に対する意識が高く、学生同士が互いに刺激し合い、テンポのよい授業展開が可能であった。英語の基礎力を更に堅固にするために、昨年から懸案であった「英語の品詞予測力」を向上させるためのメソッドを改良し、実践で使える文法力の養成を授業の中にうまく取り入れていきたい。また、理解力・思考力向上訓練の一貫として、文章間の有機的なつながりを意識する「つなぎ言葉」の挿入練習をしっかりと行っていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	3・4	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>出席率が概して芳しくなく、受講動機に「単位数を確保する」という回答が最終授業日出席者6人中4人であったことから、単位さえ取ればよしとする、決して学習優先度合いが高くない科目と認識されていたように思われる。就職活動による4年生の欠席が多かったのも事実である。各回の授業では、テーマ項目を基礎情報の提供から実際の状況における能力・知識・技法の基本的な応用ができる段階までの学習項目にまとめて提示した。</p> <p>「学修準備性」に関しては、特に予習を課さず、予め準備課題を与えることと、自発的に次回テーマの関連項目に目を通す程度の提案にとどめた。復習についても特に時間が取られていないのは、授業で取りあげた各種技法・知識、保存版的内容のハンドアウトについては、実人生で必要になるまで保管しておくだけでもいいという判断があったのではないかと考えられる。</p> <p>自由記述では、授業が役に立ったという内容のコメントを複数得られていることから、一定の成果は得られたものと考えたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>授業で取りあげるテーマと学生がこれまで学習してきた内容との親和性が薄いと思われたため、期末試験の評価を50%とし、授業と並行するその他の課題等への取り組みを相対的に重視した。少人数クラスであったものの毎回の授業で欠席者が生じていたため、また、欠席による学習事項の漏れが期末試験に影響したため、C評価が45.5%と多くなった。</p> <p>到達度自己評価において平均値3.3～3.8と低い項目が多かったのは、出席率の低さからして当然とも考えられるが、一方、就職活動を前に「専門分野」が絞られてきている学生にとっては、多角的な授業内容が物足らなかったという指摘であろうとも捉えている。</p> <p>成績評価においては、遅刻・欠席については減点ルールに基づき、レポート等各課題毎の評価はルーブリックを基本としつつ、アナログの評価が必要と思われる観点については講評を添付して評価を行った。レポートの評価におけるルーブリック利用については、デジタル評価(誤字脱字や不適切な語法など)についての減点が多かった。これは、アカデミックライティングの習熟度が当初の想定とずれたことがあるため、今後の新カリキュラムでは配点を再検討したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業内容については、DPが想定している国際関連の内容として主に英語ビジネス文書作成の基本を取りあげ、他の英語科目で蓄積された英語表現力に方向付けを行う形で学習している。しかし、授業の中心は、グローバルな活躍というよりも、一般的な企業で就業するにあたって必要となる基本的知識・技能の習得を学際的に図っている。</p> <p>今後は新カリキュラムに移行するが、受講者の半数は授業内容に関心を寄せていたため、DPとの整合性を今後とも検討していきたい。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

前年度後期の新カリキュラム（2年生対象）で平均3.1であった説明の理解のしやすさについての評価平均値が当期は4.0であり、他の項目も4.3から4.5であったことから、授業項目の提示方法や説明内容について、3、4年生には一定の理解を得られたものと捉えている。

情報利用については、主にインターネットの適正な利用についてパソコン教室において授業でも複数回取りあげているため、ネットを利用しなかったと回答した者があるということは理解に苦しむ。図書館については、特にレポート課題において利用があったものと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業中の論点・問題点についてのなげかけやレポート課題において、考察力の向上が充分見られなかった。日常的に複数の新聞の論調を比較するなどの指導を検討したい。

技能面については、特徴的なビジネス手法についての基本は実際に演習し、特化した資料も提供しているため、今後は必要に応じて活用してもらえるものと思われる。「慣れる」部分が多い分野であり、基礎的事項は概ね理解してもらえたものと思われる。

意欲、関心については、DPで指定されている「英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解をさらに深め」たり、「国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たし」たりという点については、本科目では二義的な観点とし主に「産業社会への関心や意欲」と読み替えて取り組んだため、本来のDPにおける達成度は低かった。DP配当の見直しも課題のひとつと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	近藤 憲一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 受講動機として、89%の受講者が「教諭免許の取得のため」と回答し、選択科目にもかかわらず進路選択の上から「必修科目である」と受け止めている受講者が22%（重複回答あり）という状況であることを踏まえ、できるだけ教諭すなわち学級担任を想定した事例等の準備を行うなど、受講への興味関心を醸成しようと考慮し他学科（初等・中等教育の養護教諭、栄養教諭免許取得）との関わりから、資料や事例等の選択・取扱いにできるだけ工夫して、受講への興味関心をたかめるよう努めた。</p> <p>② 昨年度と同様、授業の最初に小、中、高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いの思い出を交流し合うことを通じて、特別活動への様々な思い出に触れさせ、特別活動への興味関心を深めるようにして受講動機の強化を図った。</p> <p>③ 10回の講義後に、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。また、その際、レポートの記述要領の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を醸成した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象者は0名であった。理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は70%といった状況であった。このことから、授業の実施結果の評価については満足いくものであったと思われる。しかし、受講者による到達度自己評価の知識・理解、態度の観点及び授業の質的評価においては、いずれも学科別集計に比較して10%程度の低い値を示している。そのため、授業への準備や過程、到達度の自己評価の向上、すなわち、受講への参画や授業ごとの理解度の向上等に向けて、資料や事例等の選択・取扱い等に工夫するようにしたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教諭免許の取得には必修の内容である。そのため、免許取得を前提として受講しているものとして受講生の希望にさらに応えるよう工夫していくこととし、受講生も結果として満足する成績を収めていることから、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講者による到達度自己評価の知識・理解、態度の観点及び授業の質的評価においては、いずれも学科別集計に比較して10%程度の低い値を示している。そのため、授業への準備や過程、到達度の自己評価の向上、すなわち、受講への参画や授業ごとの理解度の向上等に向けて、資料や事例等の選択・取扱い等に工夫するようにしたい。また、本学科（英語科）のみにみられた傾向であるが、「時間がなかったから」という複数回答や「試験と指導案づくりとレポートの全てをするのは多すぎる」といった記述から負担感を感じている受講生の存在が明らかになるとともに、「教員を目指している私にとって、この授業はとて大きく勉強になることがたくさんありました」という受講生の存在あり、今後、これらを考慮しながら工夫改善を図ることも考えたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

特別活動の特質、目標、内容等についての基礎的知識の形成については十分達成することができたが、具体的資料や指導の実際の事例の提供について課題が生じていると思われる。すなわち、中等教育の学級担任を目指す受講生と初等、中等教育の養護教諭、栄養教諭を目指す受講生のいずれにも適した指導の実際等の資料や具体例を授業時間内でどのように提供するかという課題である。学科横断的科目としての必然的課題であるが、特別活動の指導のあり方についてできるだけ内容調整などを図りながら、受講への興味・関心を高めるよう改善工夫を図っていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育方法論は担当する教職課程の最後の講義（今年着任なので最初で最後）になるので、教員としての実践力の基礎及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。</p> <p>②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、参加度を高める工夫をしてみた。</p> <p>③途中、中間テストを入れ、かつ問題を協力して考えるという参加型（アクティブ・ラーニング）の手法を取り入れてみた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない			達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は87.8であり、この科目の全体の平均値87.6と変わらない。再試験対象はいなかった。多くの学生は期待した水準に達したと 言うことができる。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の科目なので、英語そのものにかかわることは全くといっていいほどない。しかし、教職免許状を取得するには履修しなければならないので、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当としか言えないだろう。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「配付資料の内容がわかりにくい。」「正解が書いていないので不安だ」という意見があった。
わかりやすいような改善ははかりたいが、正解のない課題なので、そこは理解を要求するよう指導して行かざるを得ない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

なんとか試験はこなしたが面白くはなかったというのが学生の本位であろう。教員免許証の取得にどれだけ意欲的なのか問題なのではないだろうか。そこが課題であろう。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2015年前期同様、「英語の教え方」そのものについての知識はほとんどない状態だったので、そこに特化した授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの「知識理解」「態度」に関する部分は高い評価を得ており、そのことは自由記述でも裏付けられているので、「達成された」という判断に至った。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート、そして自由記述の内容からも、学生の満足度が高い授業であると判断されるので、内容的妥当性は高いと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については特に問題ないと思われる。昨年度の課題であった「宿題・課題の量」については、宿題・課題を精選した結果、本年度は「多すぎる」という自由記述は見られなかった。宿題・課題をやることへの達成感・充実感・満足感の向上に、今後も努めたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今学期で2回目の担当をした授業であったが、授業のデザイン・運営は前回よりもよりうまくいったと考えている。学生の自由記述の中に、「質問をすると『だから～、』と言われ、少し質問しにくい雰囲気があった」というコメントが見られた。無意識で発していた「だから」という口ぐせに気づかせてもらったので、今後は「ことば」の使用について、これまで以上に意識を高めていこうと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程履修者の必修科目であるため、「受講動機」は100%である。</p> <p>②「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の中で、当科目は教育実習に行く前の総仕上げとなる科目である。このため、春期休暇中の課題として、次の2点を課した。</p> <p>(1) 「新編 教育実習の常識」(蒼丘書林)を読んで、その感想をA-4用紙に、1,000字以内にまとめなさい。</p> <p>(2) 平成24年度「New Horizon English Course」の3年生用教科書pp.92～111までの単語、発音記号、品詞すべてを書き写しなさい。(B-5サイズの大学ノートが望ましい)</p> <p>③9名中5名は、5月20日～6月17日の期間中に教育実習が予定されていたため、模擬授業を前倒しして実施する計画を立てた。</p> <p>④その結果、前期実習予定の5名には、それぞれ、4/25、5/2、5/9、5/16、5/23に模擬授業を実施し、後期予定の4名には、5/30、6/6、6/13、6/20にそれぞれ実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された			達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①学期末の達成度評価において、担当者が掲げた目標を9名全員クリアできた。</p> <p>②知識・理解に関して、「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」は4年間の積み上げ作業となっているため、かなり達成されていると判断できる。</p> <p>③模擬授業に合わせた事前教材研究は、指導教案チェックなどを通して、全員できていた。</p> <p>④模擬授業における的確な音読に関しては個人差があるが、多くの受講生はまだ完成途上にあるとの認識に至った。</p> <p>⑤教育実習時に英語による授業展開ができるか否かは、現場によって事情が異なるため、短絡的には結論付け難いが、今後の努力次第で、まだまだ実力を伸ばせる部分であろう。</p> <p>⑥教育実習が終わっても、市内の複数の中学校において教育支援を継続しており、教育に関する態度は十分に身につけていると判断できる。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 当科目は教職に関する科目の一つであり、4年次教職課程履修者の2単位科目である。教科指導法における各種理論や模擬授業を通じての指導技術などは「英語教科教育法Ⅰ～Ⅳ」において積み上げられてきているので、それらの理論・指導技術などをいかにして現場で活かせるかは重要である。その中でも特に現場で困らないための発音指導を意識させながら模擬授業を重ねた。このことにより、「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の連携が保たれ、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解に関しては、上述した春期休暇中の課題本を通じて、教育実習のノウハウは修得されているはずである。また、技能表現に関して言えば、実習現場で使用可能な教材の作成などに関しては、模擬授業の中で活かされていた。さらに態度に関しては、自分の持つ能力や知識を、教育実習という形で、地域社会の発展に寄与してきた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①受講生が昨年度の4名から9名に増えたため、5月20日から一番早い教育実習生に合わせた模擬授業計画を立て、授業を実施した。その結果、模擬授業の評価は成し得たが、その他のことを差し込む余裕はなかった。
- ②授業の質評価に関して、期間内に行う学習の範囲や課題、説明の理解しやすさにおいて、9名中1名が「少しそうでないと思う」と回答しており、昨年度の4名中1名より改善されているが、引き続き改善の余地は残る。
- ③情報利用に関して、シラバスを参考にした者6名、参考にしなかった者3名で、前年度の半々からかなり増えている。
- ④図書館利用では、図書館の図書・雑誌の利用及び学術データベースの検索は、9名中7～8名行っていたが、インターネットのホームページの利用者は5名であった。
- ⑤担当教員への意見としては、「もっと実習前に的確なアドバイスが欲しかったです」という1点だけであったが、前期実習の学生なのか後期実習の学生なのかは定かではない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①「英語教科教育法Ⅰ～Ⅴ」の最後の位置付けとなっており、9名の受講者は各自のペースで努力した結果、1名が福岡県中学校教員採用試験に合格した。
- ②9名中4名は後期の実習（9月～10月）となったが、すでに授業は終了し、夏期休暇も続くため、授業の流れからすれば、前期の授業期間中が望ましいと考えている。
- ③本科目履修の9名に限らず、3年生の教職課程履修生の一部も、市内の2つの公立中学校（板櫃中・思永中）に学習支援に出かけていることは、実習時に必ず役に立つはずである。
- ④履修生の人数や実習期間などは毎年流動的な要素となるので、改善できそうな課題に関しては、次年度に向けてその改善に取り組みたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識にくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった		やや達成された	やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>平均点は60.0点、合格率は60.0%であった。平均70点を予想していたが、それを下回った。合格者のうち、秀はおらず、優は1名であった(5人中)。合格者の平均レベルは高いとはいえない。指定された枠組みを守りながら最低限のアウトプットはできており、知識理解についてはある程度達成されたといえる。ただし、授業のねらいと教材や授業展開の工夫など、思考判断については不十分であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。
(3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。ただ、結果から見るとそれができた学生と、漠然と指導案を読んでいるだけの学生にはっきり分かれていたように思う。宿題だけでなく、授業中の作業として自分自身の指導案作りをさせるなど、演習的なアプローチが必要だと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況からすると、基本的な部分は達成できたが、自分なりの工夫という部分で弱いと感じている。学生自身の興味関心という点で問題があるだけでなく、具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	野原 三郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 「学生の授業評価アンケート」より、受講動機として「必須教科である」20%「資格に必要」80%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。</p> <p>② 授業の実施にあたっては、従来の生徒指導の内容とともに、子どもや学校にかかわる災害や事件事故をどのように予見し回避すべきかについて考察する内容とし、以下の3点に重点を置いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する事象や関係法規を取り上げ、学校・教師の社会的使命の自覚とコンプライアンス意識の醸成を図る。 ・子ども達の社会性や対人関係能力を育むガイダンスカリキュラムについて演習を通して学ぶ。 ・危機管理能力と、防犯・防災教育についての実践的指導力を育成する。 <p>③ 授業の導入にあたっては、教育問題や児童生徒に関する事件事故などに関する新聞記事を用い、学校現場に直結した授業となるよう心がけた。さらに教育課題をどう捉え、解決する方策について講義・演習を行った。演習としてSST、犯罪やいじめ防止のロールプレイングなど、実践的な内容になるよう配慮した。</p> <p>④ 受講学生は全員が3年生であり、実社会への接続期となり、社会や学校教育に関する意識や関心を持たせるために、毎週の課題として一週間の新聞記事から教育問題に関する記事についての感想文論作文を提出させ添削を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか、達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された		どちらともいえない	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>① 到達度自己評価の「自分なりの目標を達した」の項目では、「わりに」が4名40%、「まあまあ」6名60%となっており、否定的回答はなかった。</p> <p>② 学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、4名、5名」「0名、5名、5名」となっており否定的回答はなかった。</p> <p>③ 学生の思考判断に関する<検討する力><判断する力>それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、3名、6名」「1名、3名、6名」であり否定的回答はなかった。</p> <p>④ 同じく意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、4名、5名」の順となっており、否定的回答はなかった。</p> <p>⑤ 技能表現に関する<技術>とでは肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順「0名、3名、6名」の順となっており、否定的回答はなかった。</p> <p>⑥ <コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名、3名、6名」となっており、否定的回答は「すこし」が1名、平均値も「3.2」と最も低い評価となっており、課題が残る結果となった。</p> <p>⑦ <職業倫理>や<職業選択>での肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、1名、8名」「6名、1名、2名」となっており、否定的回答はなかった。</p> <p>⑦ <職業選択>だの肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、2名、6名」となっており、否定的回答は「すこし」が「1名」であり、課題が残る結果となった。</p> <p>全体として否定的回答は少ないが、昨年度の到達度自己評価に比較して後退している。その要因はシラバスの消化にこだわるあまり、学生が授業内容を十分に咀嚼できないままに授業を進めたことや、講義中心の授業から十分に脱し切れていないことがある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

教職課程における本科目の位置づけからみての内容の妥当性としては、受講動機として「必須教科である」20%「資格に必要」80%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり、位置づけ動機づけの一つとしている。こうした学生の志向に応えるためにも、近年の教育の動向を踏まえた内容を工夫し、学生も一定の成果を収めており、内容の妥当性はあるものと思われる。特に児童・生徒の問題行動への対応の在り方についての基本的理解や構成的SST等の演習は、教育実習を充実させる上でも本教科の内容の妥当性があると考えられる。

近年、学校内外において予想を超えた様々な問題が発生し、その都度学校・教師の危機管理意識の欠如が厳しく指摘されている。これらは従来型の問題行動以上により対応が難しく、学校・教師に大きな責任が課せられる。これらの児童生徒に関する災害や事件事故への確に対応するには、① 学校保健安全法をはじめ安全に関する様々な法規についての理解とコンプライアンス ② リスクマネジメント、クライシスマネジメントの在り方 ③ 体験を通じた防犯・防災教育の指導方法、の三点が必要であると考えられ、本教科でも出来る限り取り組んでいる。このことは教師をめざす学生にとって必須であり、本教科の内容の妥当性があると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

① 学生の担当教員への意見は、「細かく有意義な講義をありがとうございました。教員への第一歩が大きく前進できました。」「最初に新聞を見ていたので、論作文を書くときに役に立った」といった肯定的意見があったが、学生への接し方について否定的内容の意見が1件あった。貴重な意見として今後の参考にしたい。授業規律については、指導するだけでなく支援者の立場として本人を納得させ、本教科の重要性に気付かせるとともに、自らの授業の改善に努めるべきであった。

② 「授業の質の評価」については(1)「評価基準」の平均値が「3.3」と、低い値になっており改善が求められる。また、学生の意見として「スライドが早すぎて内容がよくわからなかった。」「スライドを順番通りにしてほしい。」とスライドの提示に関するものがあった。その要因として、シラバスの消化にこだわるあまり、学生が授業内容を十分に咀嚼できないままに授業を進めたことこのことにある。

③ 「学習量の評価」については「(1)授業の準備」については1回と回答した者が3名、6回と回答した者が3名と最も多くなっている。

④ 「復習」については4名40%の学生が「① 0回」と回答している。また、「(4)課題以外に学習」についても「① 0回」が8名と最も多くなっている。

以上の点から、講義中心の授業から、学生が協力し主体的に課題解決を図るような授業の追求が必要である。また、知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回まとめテストを実施するようにしたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的評価として否定的回答は少ないものの、学生の知的欲求や能動的学習意欲を十分に満足させるものではなく、授業改善を図る余地が大きい。以下に本年度の課題解決に向けた対応について述べる。

- ① PBLやアクティブラーニングを推進する。
- ② 知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回小テストを実施する。
- ③ 本年度、取り組みはしたが十分な時間が確保できなかったブレインストーミングやKJ法、開発的生徒指導の例としての構成的グループエンカウンターなど、実践的な活動を充実させる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "iTalk" (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in two e-learning programmes: CHieru, for developing general skills, and Word Engine, for building vocabulary.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 81% to 93% with an average of 86.50%. In CHieru e-Learning, all students except 1 reached their monthly targets of 300 miles. This year we also collaborated with the Extensive Reading course, working on vocabulary building together. For this we made use of the Quizlet app, and all students seem to be progressing well.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross. This will be our focus in the coming years.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the next academic year include: 1. A stronger focus on communication tasks, with students being put into situations where they have to use English more, 2. Greater use of the Chatterbox Language Lounge to supplement their class time, 3. more use of the Winchester students for real time learning in and out of class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示してください。

We made good progress this year in building a more robust assessment system. Our next goal is to make this more transparent and collaborative as we want students to be fully aware of their progress and status in the course throughout the semester.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "iTalk" (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in e-learning programmes such as CHieru.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students did well in all assessment areas (attendance, classwork, presentations, final test, and e-Learning). There was a lot of energy in the class.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

It is important to continue to build on the students' skill set and encourage them to use the skills they have already learned in communicative manner.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As with most communicative courses the largest hurdle is keeping the students in the target language. Closed exercises tended to increase target language use, while open exercises tended to lead to a deterioration in target language use as time was extended for the activity

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. Practice with dialogue drills (listening and speaking), information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises helped students review and reinforce their basic English skills.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework 25%, presentations 10%, and a final test 20%. The majority of students received a grade in the 80-90% range.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Working in pairs and small groups, students took advantage of helping and receiving help from other class members. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students enjoyed taking more risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Integration of supplementary materials into the curriculum and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English I	1	前期	必修	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is separated into two sections: Skills and Communication. For this class, I taught "Skills". We used the textbook "Four Corners 2" (Cambridge), which guides students through a series of practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (passive participation 15%, active participation 30%, homework 25%, event participation 10%, and a final test 20%). The majority of students received a grade in the 85-95 range.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were very enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with most students taking advantage of the opportunity to learn.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year include improving integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting). Adding pages to the workbook to match the number of lessons in the term is recommended for all Skills courses.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示してください。

Streamlining and improving the use of class workbooks to encourage note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Intensive Reading I	1	前期	必修	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本学への入学生の特徴として、英文解釈においては文章を単語の羅列と見て、品詞や文型に着目することもなく、単語の意味を組み合わせる意味を推理するという方略に依存する傾向が強い。これは、長文の分析を必要とする当科目への受講動機における関心度合いの低さ(6.7%)からも窺える。本授業では、英文は文法・語法・構文への理解を基礎として解釈するもの、との方法論を提起し、主要4品詞の働き、5文型、前置詞句の働きを重点的に取り上げた。</p> <p>学習に当たっては、長文読解に加え、英文Eメールによる予習の質疑応答、音読、英作文、プレゼンテーション、ネット検索などを加味し、読解のみに留まらず、4技能の向上に努めた。特に、ライティングでは、高校まで手書きであった英語を始めてタイピングすることになったため、スペース取り、コンマやコロン、クォーテーションマーク等の符号の処理についての初歩的な指導についても時間をとった。</p> <p>テキストの各チャプターの学習では、授業全体の狙いをテキストの中から汲み取れるよう、毎回予習、復習の宿題を課した。短時間では解答できない設問ばかりであったが、再履修にもかかわらず学習意欲に向上が見られなかった一部学生を除き、毎回よく取り組まれていた。学習量の評価で、授業以外に学習に取り組めなかったとした学生については、宿題への取り組みで手一杯で合ったものと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>中学・高校で英語をコミュニケーション手段として捉えてきた学生の多くは、特に文法、語法の学習への違和感が強い。積極的に理解しようと努力した学生が多かったと見ているが、一方で、最後まで文法苦手意識を解消できなかった層があった。にも拘わらず、到達度の自己評価で概ね4.0程度が示されたということは、当科目で提示した英文理解へのアプローチについて一定の意識づけができたものと考えられる。</p> <p>当科目はDP2に該当しない位置づけではあるが、大学生の英文読解・情報処理の課題として、テキストにの各チャプターで提示された見解について批判的に検討することを促した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>コミュニケーション能力については、当科目としてリーディング技能が該当し、英語話者の思考方法や価値観への理解を通じて協働へとつなげる学習として、現在の位置づけは妥当と考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業内容の論理的理解を促すとともに、実際に学習した知識・技能を使って発表する機会を設けた。動機付けとしては、学習の先に展望できる将来イメージを視覚的に示すことに努めた。
授業の質評価で、説明が理解しやすかったかという質問項目で唯一、5評価よりも3が多い(平均値3.9)結果となっていることは、文法事項の説明に一層の工夫が必要であることを示しているものと捉えている。
図書館、インターネット利用については、宿題の課題として情報検索を課し、またその検索結果に基づいて大半の学生から提出を受けている。毎年度の授業評価の回答で「利用しなかった」が多いことは、設問の意図が伝わっていないものか、不可解である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

当期に取り扱った教材はTOEICスコア換算で500レベルの言語材料と文法事項であったが、英検準二級取得者（TOEICスコア400程度とされる）を中核とする新入生にとっては、相当量の学習が必要となる科目である。成績平均が良であったことは、「やや達成された」レベルと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Extensive Reading I	1	前期	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students increase their ability to read in English. This involved having students do regular timed reading practice in the classroom to build reading speed and confidence in reading. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read at least 15 books or around 150,000 words over 15 weeks. Reading process was tracked by recording word per minute rates for in-class reading, and by using the Moodle Reader system to record and track out-of-class progress.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and a couple of small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Final results were better than in previous years with only 1 student failing the course due mainly to not having completed the required reading component, along with demonstrating a lack of the overall reading skills required to successfully complete the course. A change in the required reading levels to a more achievable level seems to have helped improve outcomes overall.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course is quite demanding for the students, but overall the level of participation and commitment is high, with few to no absences and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. As has been the case for previous classes students, tended to initially approach the course goals with quite low expectations, demonstrating quite negative opinions about their ability to engage in sustained reading of material of substantial length. However, as they worked through the course and were, for the most part, able to see positive changes in their reading skills, this tended to lead to increased perceptions of reading efficacy and increased confidence regarding ability to meet or exceed the required course outcomes. The grading system and reading goals for the course were changed this year as they had been maybe to ambitious for the majority of students. Encouragingly, 12% of the class surpassed the maximum reading level required, with another 28% reading at very high levels

Similarly, as in previous years many students are entering the course with very low levels of reading ability, and seem to have had little experience in reading long texts in either English or Japanese. They do seem aware of this weakness, and are willing to try and improve this aspect of their English. There are also some issues related to the online system used for tracking reading progress, as some of the books available for the students in the library are not yet entered into the online database, making it difficult to track progress in reading these particular books.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The overall goal for future courses is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. A large part of this involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. We introduced a new online reading and assessment system in the 2nd semester of 2015, which received quite positive feedback from the students, however we do not introduce that to the students until towards the 2nd semester, once they have become comfortable with the course format and are reading regularly. While quite a lot of time in class has been spent on building up reading speed, there are still issues with limited comprehension of texts. A vocabulary study component has been added to the course, but it remains to be seen how well this will work and whether it will be helpful for the students.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course is very much focused on attaining certain goals – reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. Having lowered the reading goals from previous years' levels, we are seeing better outcomes than in previous years, but once again for some students, the focus on building comprehension is overlooked, as they try only to attain the numerical outcomes. Overcoming this kind of attitude is a challenge. Secondly, finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes. More attention has been placed on helping students set realistic goals and plan their reading homework effectively, with limited success.

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Grammar & Composition I	1	前期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔りがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。</p> <p>② 例年、受講動機については、「必修科目である」という項目以外に回答した学生はほとんどおらず、今回も同様であった。できるだけ、この科目で学修することが、今後の専門科目を学修する上での基礎となることを折に触れ、具体例を挙げながら説明した。</p> <p>③ 予習の習慣がつくように、予習としてするべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。</p> <p>④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業についての小テストを実施した。</p> <p>⑤ 小テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回解説するようにし、学生に注意を促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の評価の平均値は80点で、再試対象者は試験日に欠席した1名のみであった。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、ほとんどの学生が「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答している。一方で、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生も若干名おり、この点が昨年度と異なる点である。学修事項の定着を図るため、授業の中で繰り返し練習する機会を多く取るようにしたため、学生が説明を聞いたり、考えたりする時間が減ったことが原因ではないかと思われる。この点については、学生が余裕を持って授業に取り組めるよう、授業の方法について再考したい。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、1名が「期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった」という項目について「少しそうでないと思う」と回答しているもののほとんどの学生は「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているため、ほぼ目標は達成できたのではないかと考える。しかしながら、毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたにもかかわらず、30分以上の予習や復習の時間をとらなかったものが13名おり、全員に十分な学修時間の確保を徹底させることができなかったといえる。今年度からは毎回予習の結果を提出させて、ほぼ全員が毎回提出しており、仮に他人のものを写すだけでも相当の時間がかかると思われる量であるにもかかわらず、このような結果になったことについて、原因を探っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が数名いたことから、全員に学修の習慣ができたとはいえない。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を配布するなど、学生が学修しやすいように工夫しているが、全員に徹底できていないことから、予習や復習の状況の確認をより徹底するなどして、来年度は改善していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Practical Eng. Phonetics I	1	前期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①必修科目であるため、「受講動機」は100%である。 ②受講者にとって、入学時までを受けてきた英語の授業でほとんど体験したことがない領域を取り扱うため、15回の授業進行に関する詳細なシラバスを作成した。 ③使用テキスト2冊に加えて、これまで継続使用してきたハンドアウト(21ページで1年分)を配布し、毎回の授業と連動しながら使用した。 ④授業時間帯は火曜日の1時限目(Aクラス)及び2時限目(Bクラス)と続いていたが、毎回1時限目の授業開始15分前には授業の準備を開始した。 ⑤新しく改装された531はActive Learningが可能な部屋となったため、過年度までとは異なる心の準備が必要であった。 ⑥必修科目であるが、受講動機で最も関心が高かったのは「関心のある内容だった」という項目であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①学期末の達成度評価において、担当者が掲げた目標を2名を除きクリアできた。(2名の内訳は、欠席過多で受験資格を失った者1名、資格はありながら受験しなかった者1名であった) ②15週の出席率は、1時限目のAクラスが93.2%、2時限目のBクラスが97.7%であり、両クラスを合わせた出席率の平均値は95.5%であった。ただし、①の2名の出席率がそれぞれ47%、67%であったことで、昨年度の平均値である97%を下回る結果に至った。なお、無欠席者は45名中27名で、全体の60%に相当し、昨年同時期の69.7%を下回る結果になっている。 ③学生によるDP(1)の「授業評価アンケートの目標達成感」は、「少しそうでないと思う1名」、「まあまあそうだと思う11名」、「わりにそうだと思う20名」、「かなりそうだと思う9名」と出ており、全体の比率はそれぞれ、2%、26.8%、48.8%、22%となっている。昨年度と比較すると、ネガティブな者が1名いたが、「かなりそうだと思う」の数値が昨年の15.1%から22%へ上昇している。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本教科は「山モン基礎科目」の一つで、1年時必修の2単位科目である。また、本科目はその性質上、すべての英語学習者に、言語音としての英語発音のメカニズムを正確な形で修得させる学問であると位置付けている。さらに、本科目はたの英語関連科目の礎をなすものである。また、教職課程履修者などには、非常に重要な科目として位置付けることができるため、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解の領域において、DP1-2の「英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている」ということに関しては、本科目が高校終了時まで、その詳細にほとんど触れられていない点を考慮して、十分な時間をかけながら、次の内容に重点を置いた。すなわち、調音音声学的にみた英語母音と日本語母音の音構造の基本的な違い、英語の強形・弱形の関係、リズムとイントネーションの関係などを詳細に取り扱った。結果的に、録音課題提出、口頭発音テスト、学期末試験などを通じての不合格者(ただし、上述の2名は除く)は出なかったため、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①授業の質評価では、(1)～(5)の各項目において、それらの中央値4.0と比較した場合、いずれも4.0～4.1の範囲に位置しており、項目(2)・(4)で「少しそうでないと思う」という意見がそれぞれ1名ずつ出た以外には、特別な改善課題があるわけではない。担当教員への意見としては「楽しかったです」という1点だけだった。
- ②受講生は英語発音に関する基礎知識の指導をほとんど受けてきていないので、基礎の基礎となる底辺をいかに揃えるかが常時問われている。したがって、本教科においては、いかに効果的な音声指導法を構築するかが、継続的な探究課題となっている。
- ③学習量に関しては、1回30分程度以上の準備をした受講生が72.5%（昨年度は75%）であった。また、同等量の復習をした者は70%であり、その数値は拮抗している。
- ④情報利用におけるシラバスの活用は、参考にした者56.1%（昨年度は48%）、参考にしなかった者39%（昨年度は52%）、無回答4.9%であった。
- ⑤図書館の利用に関しては、科目の性質上やむを得ないが、80%（昨年度は90%）以上の者が利用していない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①専門基礎科目で、1年生必修であるという位置付けから、英語音声に関する基礎知識の形成及び実践的能力の修得においては、若干の不安は残しつつも、概ね達成できた。
- ②このことにより、当科目は、他の英語専門科目の中で、音声を通して学習効果を試すことが可能になる。
- ③第1回目の授業時に、シラバスの入念な説明は施しているが、上記記述の通り、活用していない受講者が、昨年に引き続き50%を超えているのは心配である。
- ④当科目の学習量に関しては、予習・復習とも4人に1人は実施していないのは残念である。
- ⑤授業の記録は9割近い者がとっているが、1割強の者はとっていないという結果になっている。
- ⑥授業の課題以外の自発的学習に取り組んでいない者が7割以上いるのが気になる。
- ⑦図書館の利用者が少ないのは、科目の性質上やむを得ない部分である。
以上から、上記①・②は特に問題はないが、③に対する継続指導は必要になろう。④・⑤・⑥は、次年度はその数値以下にならないように工夫が要りそうだ。⑦は531がアクティブ・ラーニングの部屋へと改築されたが、図書館の利用と直接は関係ない状況のようだ。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion I	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This year was our first to use the In Focus textbook for this class. As well as the coursework from the textbook, we heavily supplemented using online activities on our Moodle CMS. This course also has a strong focus on vocabulary building, so we set up a system for students to learn 4 vocabulary lists of approximately 1200 words each, and these were tested on during the semester.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>Students were assessed on 1. Vocab Test scores (15%), mid- and end-of-semester projects (15% each), class performance (25%), portfolio (10%), self evaluation (10%), and progress in e-learning (10%). The average grade for the semester was 78.4%, with a range of 60% to 89%. All but 2 of the students completed the e-Learning section of the course.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>This was a very difficult class for these students, perhaps due in part to the level of the textbook and the type of activities involved. There were large amounts of reading required before and during class, and these A class students struggled to understand the content. The dynamic of the class didn't help with this as there is a faction within the class who have been resistant to study during class time and have been disruptive for others.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Given the problems with implementing this textbook we have decided to change to a different book next year, and will be choosing one that fits the communicative nature of the course better. We will continue with the vocabulary building parts of the course as we felt these were valuable for the students to help them develop their overall skills. We also want to move the curriculum to a more student-based approach, and we will be involving students more in developing their own materials, developing groupwork and leadership skills, and participating in assessment.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion I	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Through this class, it was hoped the students would be able to achieve the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Improve general communication skills - State opinions about the topics under discussion - Show if they agree or disagree with other's opinions - Clearly express their points of view and explain why they hold those views - Prepare and make short presentations about various topics
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった		やや達成されなかった
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. However, due to an inappropriate textbook choice for the course, and problems with the behaviour of a number of students in the class, outcomes were variable at best. No students failed the course, but the general level of work was below expectations.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>A number of the students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. However, for others, there was a general unwillingness to try anything they perceived as beyond their ability. This led to a fairly slow level of progress, but the more capable students were able to work at their own pace and did well on the various projects and out-of-class extra activities they were asked to complete. .</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The biggest problem this year was that we had chosen a textbook which proved to be unsuitable for the class level, and for the course aims. It will be necessary to select a new text for future classes. Other activities set, such as online discussions and presentations saw a better response.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

A small number of students consistently disrupted and slowed down the class progress due to an inability to focus and concentrate on class content. It needs to be made clearer that this is unacceptable. Students need to be given a clear set of goals we wish them to achieve, and these would include 1. A set of "I can..." targets for each unit of work, 2. A definitive set of vocabulary items to master, and 3. Performance tasks with clearly defined assessment criteria. It is also important for students to realise that the class, as a discussion class, requires collaboration and cooperation, and that they need to understand that failure to cooperate will influence not just their outcomes, but general class outcomes, too.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Multimedia English	2	前期	必修	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This class was the first time in the new Active Learning space in 531, and was run using our Moodle CMS website. All materials were available to our students online, and could be accessed by PC, tablet, or smartphone. Each week, the students were introduced to a different form of media-based technology. These included SNS services, podcasts and audiobooks, movies, graphics services, presentation software, and so on. They practiced using these, then presented their results to their group or to the class.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>With a couple of exceptions, all students participated fully in this class, so we generally achieved all the targets that were set at the beginning. Materials created by the different activities were usually uploaded to the website and shared with others. This created a collaborative atmosphere, and a mild sense of competitiveness, so students were keen to exhibit their best work. In addition, for the final assessment they were required to choose and evaluate a piece of software or a web service and present it to the class. This they did extremely well, producing some interesting presentations.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>As shown above, almost all students achieved well in this class. Because this is a fairly non-academic class, plus the students can generally work at their own pace, this class was particularly beneficial to those students who might find it difficult to achieve success in other areas. It was good to see a number of students who have difficulty in more academic classes succeeding in this class.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Probably from next year this class will focus on using the new version of CHieru, so will return to a computer suite. As students become more proficient in using technology – the differences become more apparent every year – the challenge is finding media resources that are new or useful to them. For next year, the emphasis will be more on self-study resources, particularly those that students can modify for their own needs, such as Quizlet. Also, the assessment tools need to be reconsidered so that students can self monitor more effectively. Ideally, all assessment will be performance based, and both ongoing and transparent.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As stated above, we will be using CHieru next year, so assessment tools will need to be reconsidered so that students can self monitor more effectively. Ideally, all assessment will be performance based, and both ongoing and transparent

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Extensive Reading III	2	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語を読むスピードと正確さの両方を大切にしました。昨年度の反省に基づき、英文を読ませる時間に制限を設けた。そして、各自読むのに要した時間を記入させ、その時間内で、内容真偽判定がどれほど正確にできたのかも記録させた。授業の後半では、読ませた英文について、授業前に収録した動画を視聴させ、読解内容の確認を行った。このビデオは、学生1人1人が独自のペースで視聴できるので、完全に個別対応の教材となる。更に、英文中で出てきた英単語を、学生の選択によって単語帳としてまとめさせ、それを覚えることを評価の一部に加えた。これにより単語力も増加したはずである。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業時間、学生達は、ストップウォッチをみながら、毎回真剣に取り組んだ。解説動画も熱心に視聴していた。英単語の暗記にも真剣に取り組んだ。</p> <p>授業時間外読書として、5万英単語の読書を義務づけたが、ほぼ全員クリアした。</p> <p>授業評価アンケートには、とくに満足感を示すコメントは残っていないが、通常、これだけ授業中にハードな課題を与えると、必ず不平不満のコメントが残るものである。しかしそれらは一切なかった。従って、学生達は十分に授業の意義を理解して望んだと判断する。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>英語力の向上は英語学科の中核的な目標で有り、カリキュラムマップの位置づけとしても、1年次のExtensive Reading I、IIに続く、読解力の養成講座として、極めて妥当である。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

昨年度の反省に基づき、読書スピードを測定するチェックも取り入れ、本科目の一定の形が完成したと思っている。今後もこの進め方を継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

十分良いと思っている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing	2	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度は、教科書の章立て通りに授業を進めたが、今年度は最初から、パラグラフの基本構成を説明し、それに則って英文が書けるように指導した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>ライティングは、英語力が高くない学生を指導するにあたっては、全体的な講義をしても成果を上げることは難しく、基本的には個人指導が必要である。そういう状況のなか、半分を全体への説明、半分を個人のライティング活動、及び添削指導という形で進めた。とりえず、パラグラフ構成について理解をさせ、それに基づいて一応のライティングができるようにはなった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>ライティングは、英語力向上のための根本的活動であるので、DP1の中でも中核的位置を占める。学生達の取り組みも真剣である。しかし、学生本人はすぐにはその上達を実感しにくい部分大きい。位置づけとしては問題ない。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度は、説明が多くなりすぎる傾向があったので、今年度は、なるべく多くの時間をかけて実際に書かせることに焦点を充てた。それでも、日本語でも論理的思考が難しい学生の指導には苦勞が伴った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生は概ね素直に課題に取り組んでくれるが、かなり猝に当てはめたライティングにしないと、形を整えるだけでも難しい面はある。論理的な思考ができるかにかかっている部分が多いので、適宜日本語での作文指導も行った。今後とも工夫を続けていく。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing	2	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focuses on two main points: basic grammar review and writing construction. The first part of the course reviews basic grammar while getting students to write correct sentences using the unit's grammar point and topic. The second part of the course continues reviewing grammar, but with more importance being put on proper paragraph and essay construction.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>The students were generally able to complete the activities. Occasionally the homework wasn't completed in a timely manner and this led to delays in progress. The first part of the course was better understood than the second part. They struggled to clearly understand the paragraph and essay construction elements.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>The first part of the course requires them to revisit their understanding of grammar. Although the students for the most part tried hard to understand the material, they struggled with the second part of the course. Achieving a solid understanding of paragraph and essay construction remained elusive to most of the students although they did try hard to understand the concepts presented. This may require some tweaks to the course so that they can get a stronger base before moving on to the next stage.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

As stated in the previous section, some changes to the course where they can get more practice in understanding the paragraph
constructs before moving on would make progress more successful.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The assessment of the course seems to be sufficient at this point. The problem lies more in the students' understanding of the
material as pointed out above.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門 I	2	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入を行なった。 ②1冊の絵本と2冊の小説を取り扱い、文学的批評を紹介し、映画の解釈と比較も学生に行わせた。 ③レポートに比重を置いたので、毎回のレポートの採点や、最後に提出するレポートの添削を行った。 ④図書館の多読コーナーへの誘導を行い、学生に読書を促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>登録者39名中秀が19名、優が17名、良が7名、可が2名、不可が3名で、不可の学生は基本的に留学中や、大学に来なくなった学生、退学した学生である。到達度自己評価では(1)自分なりの目標を達成したと感じている学生は、36名中①0名、②1名、③7名、④18名⑤6名であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、専門基礎科目となるこの講義に置いてどの学生にも教養としての文学の知識や楽しみを教授できたのは良かったと思う。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特にレポート作成などに関しては、図書館の利用を促したものの、32名中利用したと回答したものは20名にとどまったのは残念な結果であった。今後も強制してでも文学学習につなげるために、図書館の利用を促す方法を検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

目標達成や、学習量などにおいては主旨目標は達成されたが、レポートの内容や形式に関する改善点はまだ熟考の余地がある。また授業中に話し合いや発表など学生のグループワークを促す時間もあれば更に良い。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習A	1・2・3	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英検の合格に特化した授業であるという特質から、学生があげた受講動機は、「資格取得に必要である」であった。英検2級までは、本英語学科の英語の基礎力となるものであるため、できればもっとたくさんの学生に受講してもらいたいものである。(今年度登録者8名)</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>上では全て「どちらとも言えない」と回答したが、その理由は、英検準2級合格という究極目標を全員が達成したわけではないからである。アンケートの都合上学期のわりに実施され、その時には英検の合否が判明しているため、合格した学生のみが授業に残っており、アンケート自体の「到達度自己評価」職業項目以外全ての項目で高得点となっている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。ただし、今回の英検で惜しくも不合格で授業の単位も取れなかった学生に対して、再履修させたり、その後の英検の合否についての追加調査をするなど、受講者については全員が遅かれ早かれ合格できるような措置が取ればと思う。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上や下の欄でも述べたが、学生の基礎的学力が近年劇的に低下しており、英語基礎力の要としての英検準2級は英語学科の学生全員にクリアしてもらいたい資格なので、授業以外にもたくさん勉強してもらえるような、課題の出し方を検討したい。（現在も課題はたくさんあるが、ミニテストが不合格だった学生や、課題の仕方が乱雑だった学生に対するさらなる指導までには及んでいないので）

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

登録者8名中、実際の英検の合格者は、2名であった。この英検の回から形式が変わり、リスニングの速さなども変わったことから、授業だけでは対応できなかった点が残念に思える。不合格の学生は出席率が悪いというわけでもなく、課題もそれなりに行ってきた学生であるので、基礎的な学力を底上げすることがこの授業だけでは行えなかったことが危惧される。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習C	1・2・3	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英検の合格に特化した授業であるという特質から、学生全員があげた受講動機は、「資格取得に必要である」であった。英検2級までは、本英語学科の英語の基礎力となるものであるため、できればもっとたくさんの学生に受講してもらいたいものである。(今年度登録者9名)</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>上では全て「どちらとも言えない」と回答したが、その理由は、英検2級合格という究極目標を全員が達成したわけではないからである。アンケートの都合上学期のおわりに実施され、その時には英検の合否が判明しているため、合格した学生のみが授業に残っており、アンケート自体の「到達度自己評価」全ての項目で高得点(平均値4、3-5、0)となっている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。ただし、今回の英検で惜しくも不合格で授業の単位も取れなかった学生に対して、再履修させたり、その後の英検の合否についての追加調査をするなど、受講者については全員が遅かれ早かれ合格できるような措置が取れればと思う。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

自由記述欄には、「問題をなんども解くことで傾向がわかった。面接練習をして
くれたので、自分の苦手なところを見つけられた」「単語テストを毎週
することで、毎日見開き1ページを勉強することができるので、良かったです」
「授業とても分かり易かったです」などがあつた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

登録者9名中、実際の英検の合格者は、4名であつた。この英検の回から形式
が変わり、リスニングの速さなども変わったことから、授業だけでは対
応できなかった点が残念に思える。次年度は英作文の指導にも力を入れたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習A	1・2・3	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>高校で専ら英検受験の指導のみを受けてきた新生が主な対象になるため、TOEIC TESTの特性に応じた学習への基礎的な方向付けと指導に努めた。TOEIC TESTにおけるスコア400の達成が目標となるため、主に中学校学習指導要領の範囲の文構造、文法事項の応用力と、同テストがグローバル社会におけるビジネス・社会で必要とされる英語情報処理能力を問うものであるため、国内外のビジネスや社会の仕組み・慣行などへの理解と語彙力強化を促した。</p> <p>使用テキストは、今年度から文法事項の知識整理にページを割いている新テキストを採用した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された			どちらともいえない

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC IPテストのスコア400以上が単位取得の必要条件となる科目で、今期の合格率は51.7%と、ほぼ前年度(50.0%)同様であった。一昨年度の受講者平均点は410.0で、昨年度は394.0と低下していた。今年度も394.7に終わったが、両年度共に2年生の低スコアグループが平均点を下げており、1年生のみの平均点では410.0であった。</p> <p>授業評価における「到達度自己評価」、「授業の質評価」の平均値が4.2から4.3となっていることから、受講者自身はそれなりに現状での成果に納得できているものと思われる。この項目の中央値として示された数値については、正しい数値か否かの確認が必要と思われる。</p>
---	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC TESTは実践的英語情報の処理能力としての速度と正確さを測るテストであり、DP1-2、DP5-2への現在の位置づけは妥当であると考えられる。平均スコア410.0は決してCPが目指すべき高いレベルではないが、殆どの1年生は、TOEIC TESTについてオリエンテーションにおける説明以外に予備知識を持っておらず、指導されるままに受講登録した模様である。このため、受講動機としては決して強くなく、全て英語で行われる当テストへのとまどいから学習を開始している。しかし、IPテストや個人的に取り組んだ公開テスト受験までを終えたことで、上述のような達成感につながったのではないかとと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

TOEIC TESTの目標スコアレベル400に対応するテキストを新たに採用したが、学生の習熟度に幅があったため、基礎学力に劣る層への指導が行き届かなかった。
図書館の利用4名については、TOEIC公開テストが新形式に移行したことで国試コーナーに公式問題集を揃えていただいたこともあり、公開テスト受験者が利用したものと思われる。
授業の質の評価における（４）意見まとめや話し合い、学生参加については当科目の性質から該当しないものとする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

単独の科目として、不合格率50%は突出した数値だが、これはTOEICスコア400を達成できた学生割合が50%であったということである。不合格となった学生を含め、それなりに達成感を示しているアンケート結果と併せ、TOEIC TESTで測られる英語情報処理能力の向上へ向けた学習の第一歩としては、全体としての教育目的は「やや達成された」レベルであるとする。
基礎学力に問題のある学生の存在は今後も避けられないと思われるが、明示的な基礎的文法の復習と並行した学習を支援していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習C	1・2・3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEICテストのスコアを伸ばすことを目標に受講する者が大半であり、そういった受講者は授業中の取り組みでも積極的であった。授業にあたっては、TOEICテストが扱うビジネス・社会分野の語いや表現を学習することと並行し、社会人受験者と比べ、学生の弱点である実際のビジネスや社会のしくみ・慣行についての知識も身につけられるように留意した。</p> <p>資料・音声システムを活用し、リスニングスキルの向上を支援した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>個々の受講者のTOEICスコアは、受講前の実績(平均517.5)と比べ、3年生1名(555→565)と1年生2名を除き、公開テストを含め殆どが100点を上回る伸び(平均606.8)が見られた。</p> <p>途中脱落の1名を除く受講11名中5名がTOEICスコア600を達成できず単位取得には至らなかった。その中で1年生2名は入学時の勢いで受講登録しようだが、合格まであと一歩のレベルまで到達している。</p> <p>今年度は、IPテストが従来形式、公開テストが新形式で実施されるという対応が難しい過渡期であったが、半数を上回る受講者が公開テストにも挑戦する積極性を示した。</p> <p>3年生の不合格者は、共通してリーディングセクションで問われる基礎文法、語法の知識が不足しており、これは全体でもリスニングスコア平均360.5に対しリーディングスコア246.4と、リーディングセクションのスコアがやや低すぎる傾向(目標としてはこの差を60から80程度に収めたい)として示された。この点の指導についての指導が十分でなかったと考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけについては特に異議はない。</p> <p>単なるTOEICテスト受験準備の学習ではなく、グローバル人材として必要なビジネスや社会のしくみ、日本と欧米との違い、IT化の現状などを取り上げることで、該当するDP方針に沿った授業運営を心掛けた。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

他の科目と異なり、TOEICテストのスコアで単位取得の可否が決定するという科目の性格上、不合格を恐れて受講者が少なくなるということが、授業以前の問題として存在する。
TOEICテスト受験に必要な語い・表現の構築については基本的に学生個人の努力に委せている。この点については、学生に十分説明し、併せて必要な材料はハンドアウトや資料・音声システムを通じて提供した。
図書館を利用した5名については、TOEIC公開テストが新形式に移行したことに伴い国試コーナーに公式問題集を揃えていただいたこともあり、公開テスト受験者が利用したものと思われる。
テスト受験準備の科目であるため、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（評価平均値3.6）の項目については、特に時間を割いていない。但し、問題の解答発表の際、必ず解答の根拠説明を求めている。
意見として、騒がしい受講生を放置していたという内容の指摘を受けた。確かに、授業中の発問に対して大声で反応するということが一部の受講者に見られたが、積極性を示すものでもあり、他人の思考を妨げる程のものではないと放置していた。静かに聴くだけで自発的な発言を控える学生と、少数ながら積極的に反応し、少ない機会を捉えて自らの見解を述べる学生とが混在する中でのバランスの取り方について、やや後者に傾斜した授業運営に過ぎたのではないかと反省している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

TOEIC TESTのリーディングセクションでは、文法、語法、構文の知識を基礎として、テストが取り扱うビジネスから社会生活に関する語い・表現の知識が必要とされる。3年生の不合格者は特に基礎となる文法、語法の知識が不足しており、この点の指導については、少人数クラスにも拘わらず十分な指導ができなかったことを反省している。
単位の取得率が低く、到達度に関する学生全体の自己評価平均で4.0を下回っているが、スコアの伸びは得られており、一定の教育目標は達成されたであろうと理解している。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Area Studies I	2	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>対象とするカナダを理解する上で、容易に入手可能なガイドブックやネット上の情報のみに依拠せず、カナダの真の姿、文化や国民性を探るべく、担当者自身のカナダ留学、カナダでの暮らしの実体験や知見を含めて、日本人から見たカナダという観点から、あらかじめシラバスに示したサブ・トピックそれぞれについて、既存のテキスト類は使用せず、毎回、自作の教材プリント、資料プリントを数枚ずつ配布してテキストとして用いた。また、受講生に、より大きな関心を持ってもらう目的で、カナダを紹介するテレビ番組や旅行番組を、必要に応じ、部分的に使用した。一方的な講義に陥らぬように、受講生全員で議論する演習形式で授業を進め、受講生1人1人の個別テーマの研究発表を並行して実施し、全員で討議した。これらの授業方針には十分な成果や手応えを感じた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生の7割近くが1度も欠席せず、大半の受講生が非常に熱心に授業に取り組んでくれた。具体的な評価も、受講生による個別テーマについての研究発表の成果、その発表に用いたレジュメの内容評価のほか、学期末の最終レポートの成績も、素点の平均点が80点を超えたことなどを総合して、目標が達成できたと考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>諸外国、特に英語圏の国や文化の理解は、全ての英語学習者にとって必要不可欠であり、本科目は内容的妥当性を十二分に持っていると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎回、平均3～5枚のプリント教材を準備する労力や時間は厭わないが、与えられるために、受講生が受け身になり、毎回のテーマについて講義は聴くが、自発的に調べてみようとする意欲を減してしまう危険性も、両刃の剣のように併せ持つ恐れがあることが懸念されるので、将来的には配布プリントを減らし、本学付属図書館を最大限に利用させる方策を講じたい。ただし、現時点では、十分に目標は達成できたと考える。なお、授業評価アンケートの「担当教員への意見」欄に「レポート4～6枚はたいへん厳しい負担だ」との趣旨の意見が寄せられたが、十分に調べ上げた内容を余すところなく書きまとめるには、その程度の分量は、最低限、必要であると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

以上に述べた通り、当初の予定や目標は達成できたと考えているが、受講生が与えられたテーマについて調べる際に、大半がインターネット上で簡単に得られる情報だけを用いる者が大半を占めているので、将来的には、まず本学付属図書館で積極的に確かな文献を探し、利用する姿勢を、全体的に指導したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論 I	2・3・4	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>科目担当2年目となるが、学生の理解度を探りながら、かみ砕いた説明をすることには、依然としてかなりの準備時間を要する。教科書を事前に読んでくように指導はしたが、仮に読んでも自力では理解することが難しいようであるし、前の時間に説明した内容も次週には忘れていていることが多い。そのため、授業の前半部分は、意識的に前の週の説明を別の切り口で行う、という工夫を毎回行って、学生達の理解を手助けした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本講座では、毎時間授業の最後にリアクションペーパーを書かせて提出させ、次回の授業で(必要に応じてコメントを添えて)返却した。全てPDFファイルとして読み取り保存している。これまで考えたことのない分野(音声学と音韻論の違い、形態論、統語論他)の講義が続いたにもかかわらず、学生達は必死で理解に努め、彼女らなりに理解に努め、興味を持とうとした様子が如実に記されている。※必要であればPDFファイルの提出は可能)</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>「英語学科」という名称の学科である以上、「英語学」や「言語学」は開講されているべきなので、英語学概論の授業を開講する妥当性には議論の余地がない。但し、概論と言えども一定の英語力を身につけていなければ、各学問領域の意味や面白さを味わうことができない。本学で本科目の妥当性を上げるためには、身近な例をふんだんに取り込み、練習問題をたくさん組み込みながら授業を進める必要がある。今年度は、その部分が昨年度よりも達成できた。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度・今年度に引き続き、言語学にまつわる身近な具体例をストックして行く必要がある。学生達は基本的に理解しようという姿勢を素直に示してくれるので、満足感が更に高まるように努力したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

少し抽象度が高い概念の話になると、なかなか理解が進まない学生も少なくないが、基本的に理解しようという意欲を感じるので、今後とも具体例を豊富に交えた授業を試みたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション I	2・3・4	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「異文化間コミュニケーション I」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「意欲関心」「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、他の項目に比べて高得点でなかったことによる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、問題がないと思われる。さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何ができるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本授業を担当することになって4年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	2・3・4	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>社会に出ても立派に通用する様々な表現方法が習得できるように、あるいはまた就職試験に合格するために、まず基礎からの小論文作成、短文作成、添削、マンツーマン指導、討論などから、自分の実力を知ることから始めた。学生が自らの欠点を把握し、訂正、反省しながら学べる体制を講義の中に構築した。少しずつではあるが着実に力がついたようである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生とのマンツーマン指導により、学生の成績、達成度は把握できるが、個々の差、分野別の得手不得手があるので、同時進行的に進めるより、マンツーマンと添削を重点的に行った。一つのテーマに対するプレゼンテーションで、がぜん、やる気が出て、85%あたりまで伸びていったように思われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生たちが自ら実践しやすい事例、美しい表現を提示しながら、的確な日本語の文章表現を学習することに力点を置いたので、カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容的妥当性は、よかったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、このたびは、少人数教育に集中し、「自分の言葉で書く」、「わかりやすいとはどういうことか」など、その方法論的考察をみんなで考え、意欲と熱意で取り組む訓練をした。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

根気よく一人ひとりの学生の成長記録を作り、一つひとつの評価を出したので、総括的には、まずまず達成できていると思われる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語入門	2・3・4	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>時事という分野は、その言葉から難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた事項やニュースの背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。そのために、できるだけ新しい内容の事時的ニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事事項にふれる機会を意図的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。リーディングに関しては、入門というクラスの性質上、比較的短い分量の記事を1回の授業で2～3本読ませ、授業時間内に単語の反復練習を実施して、内容の理解と記憶の定着を図った。具体的には、ペアもしくはグループになって、英語→日本語、日本語→英語がスムーズに口頭でいえるように練習をさせた。リスニングに関しては、ディクテーションスタイルを採用し、放送される英文の速度を2段階に分けることで、正しい単語の聴き取りを徹底した。昨年に比べて受講者数が半分以下になったため、個々の学生の理解度を的確に把握することができた。くわえて、90分の授業中に学生1人に対して何度も指名する機会ができたので、より双方向性の高い授業を展開することもできた。学生からの自由記述でも、「学生が参加できる場面が多かった」というコメントがあり、昨年よりも学生とスムーズなコミュニケーションが図れたと考えている。その反面、無断欠席や遅刻が受講人数に反比例する形で散見された点が残念であった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>DP1の知識理解に関しては、2回実施した小テストの平均点が、1回目：15点満点中11.3、2回目：15点満点中11.7と、それぞれ高得点を結果として出している点から、教育目標は達成されたと理解している。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中17.7という平均値が出ている。これは遅刻や欠席が若干散見されたものの、出席時には指示されたタスクに熱心に取り組んだ成果である。そのことが小テストの結果にも有機的に反映されたものと思われる。定期試験については、50点満点で平均が32.4で6割程度の得点であったが、平素の高得点が結果的に総合得点の底上げにつながった(総合評価の平均点：83.8)。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年同様、定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。毎回短い記事を大量に読んだために、欠席や遅刻をするとその分の内容理解がおろそかになるため、それが原因で結果的に定期試験の得点低下を招いたと思われる。定期試験の答えをあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっている問題という答案パターンが多かった。この点に関しては、試験前に復習などの時間を創出し、あらためて学習した内容の理解・定着強化を図るべきであった。今後の課題として、欠席した場合のフォローアップを教員サイドからより積極的に行うようにしたいと考えている。

7. 総括的评价と来年度に向けての課題

達成状況の総括的评价と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設けるようにしたい。特に、最終授業日は復習の時間に割り当てるなど、学生のニーズに合った柔軟な授業計画を立案することも検討したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2・3・4	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・大切にしていることは、①学生が国際経済の事象に関心をもつこと、従って、国際経済に関する記事に目が行くようになること、②今年起きている国際経済の出来事や最新のデータを示しつつ、どういう意味を持つのか理解させること、などである。</p> <p>・授業計画では、広く国際経済の諸事象を取り上げ、関心をもつこと、学ぼうとするもののきっかけを作ろうとした。特に、外国為替の部分、貿易政策の部分はポイントとなる旨伝えた。授業準備では最新の新聞報道などの情報やデータを伝えることに努めた。</p> <p>今年は、6月に英国のEU離脱決定といった大きな出来事が起き、この日本への影響もあることを示したことなどから、学生の国際経済への関心が少し高まった感があり、望ましいことであった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の「自分なりの目標達成」は英語学科3.5、観光文化学科3.1とまずまずであり、「やや達成された」と考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は英語学科3.5、観光文化学科3.4であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は英語学科3.5、観光文化学科3.3であり、知識理解は「やや達成された」と考える。「的確に判断する力を得ることができた」は英語学科3.5、観光文化学科3.2であり、同様に思考判断は「やや達成された」。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、英語学科3.5、観光文化学科3.2であり、意欲関心は「やや達成された」。「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」英語学科3.5、「職業選択の参考になった」英語学科3.3であり、国際社会で役立てようという「態度」（英語学科のみ）も「やや達成された」と考える。</p> <p>全体を通して、以上の見方に加え、期末試験を含む総合点の結果は、英語学科（16名）平均78.8点（2015年前期77.9点から若干上昇）、観光文化学科（27名）72.1点（同72.9点から若干低下であるがほぼ同水準）であることから、「やや達成された」、あるいは「達成された」に近いものがあると考える。</p> <p>なお、両学科合同の授業であったが、上記の通り、学生の到達度自己評価も成績も、英語学科の方が観光文化学科よりも上回っている。これは、授業で受け取った書面での質問を見ても、英語学科学生からの質問の方が、国際経済社会への意識の高さを反映していたよい質問が多かったと感じられたことと符合する。観光文化学科学生も国際的視野をより強く持つようになることが望まれる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「社会人としての基礎的な学力」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と史料する。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・配付教材に沿った解説は今後も続けていきたい。国際経済の理論より実際に起きている事象の理解に重きをおき、学生の関心を引きたいと思っているが、一方、初めて経済を学ぶ学生が多いことから、理論・理屈についても十分説明して理解を向上させるようにもっと努める必要があるとは感じる（例えば、インフレの国の通貨は何故安くなるのか、自国通貨が安くなるとなぜ輸出しやすいのか等）。

・「むずかしい」との学生コメントが授業中のアンケートで示され、質問票に丁寧に答えることで対応してきた。授業評価では「説明が早くてわからなかった」との感想も寄せられたが、「説明は理解しやすい」が英語学科3.5、観光文化学科2.8となって、昨年2015年度前期の英語学科2.9、観光文化学科2.4~2.7という低水準からは改善されたので、その点は喜ばしい。引き続き、質問票への丁寧な回答、授業中での学生を指名してのやり取りなどを通して、分かり易い説明をさらに心がけて参りたい。大事な言葉をゆっくり話す、教材の「穴埋め」部分を繰り返し言う、図や絵をもっと多用して解説する、わかり易い事例を使つての補足説明をもっと多くする、といったことを心掛けたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

・総括的には、昨年度より学生からの評価が改善されていると認識しているので、さらに改善するように取り組んで参りたい。特に、上記6の課題、すなわち、分かりやすい説明の必要性を認識しているので、初めて経済、国際経済を学ぶ学生に親しんでもらえるように、経済って面白いと思つてもらえるように引き続き取り組んで参りたい。

学科	英語学科
氏名	篠森 英佐

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記演習	3・4	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①簿記入門からの継続した科目のため、簿記入門項目と簿記演習項目間の水準差を埋めることを意識して授業を行っている。</p> <p>②適宜、課題プリントを配布・回収し復習を促し、知識の維持向上に努めている。</p> <p>③中間テストを実施して、履修生毎の習熟度を把握し具体的なアドバイスをし、意欲が向上できるように努めている。</p> <p>④履修生が苦手とする項目は、レジュメを作成し、理解を深めている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績平均は98.80であり、とても高い数値となった。履修者が真剣に学習をした成果が出ている。しかし、簿記入門からの継続した科目である旨をシラバスに記載していたが、履修者の内には簿記の知識が全くない者もいた。出席状況が良い者は最終成績も良く、欠席が多い者は成績が悪く、その差が顕著に現れた。次年度以降は、履修者全員が継続して出席したくなる授業の魅力作りも、課題の一つとして発見することができた。</p> <p>なお、意欲的な者は簿記検定試験を受験し合格しており、簿記入門及び簿記演習の集大成として資格を取得できた点は、次年度以降も継続した方が良いと思われる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目という位置づけから、簿記や資格に興味がある者が履修しているため、動機付けを行いやすい。全体的な最終成績も良い数値が出ているため、妥当性に問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

簿記入門を履修せずに当該講義を履修した者に対する学習フォローに改善の余地がある。レジュメや課題プリントを別途作成するなどして改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義、講義内問題演習、中間試験、弱点フォロー、課題プリントによる自宅学習と一連の流れの中でPDCAサイクルが実行できた。サイクルを回したことにより、最終成績の数値が良く、簿記検定試験にも合格した者も複数名おり、一定の成果は現れてきている。
しかし、上記にも示したように、簿記入門を履修していない者に対する学習フォローに問題が残る。履修生からの意見は取り入れ、次年度の改善へと繋げていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心 I	3・4	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focused on providing English and Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and his home stay family.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 22%, homework 28%, and a final test 20%). The majority of students received scores in the 70s and 80s.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Although student interest was evident, class size continues to make it difficult to engage with them individually and forced adjustments in instructional design to emphasize pairwork and weekly class preparation/class review assignments. The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year will include frequent class review/class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The biggest challenge in the coming year will be to design lesson plans ideally suited to the number of students in the class. I continue to feel that a class limit of 40-50 students would allow for a more productive student/teacher ratio, and more focused classroom energy.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	岩井 朝子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習 I	3・4	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学生になるべく多く発言させるよう工夫した。発言した学生には、発言回数を記入してもらった。</p> <p>②受講動機は、単位数確保が58.3%、科目への関心が、45.8%で、資格取得を目指す科目であるにもかかわらず、資格取得に必要と回答した学生はいなかった。</p> <p>③単語試験や小テストを、その日の授業内容を範囲にして授業の最中に行ったりして、集中力を高めさせた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、新たに知識を得たと答えた学生の平均値が3.9だったので。また、予習復習に費やす回数が0と答えた学生は5人と少なかった。図書館利用については、利用者は2人だけだったが、インターネットを利用して、知識を増やそうと努力した学生が11人いた。(全て24人中) 技術的表現を身に着けることについては、「そう思わない」または、「全くそう思わない」と考えた学生がおらず、やや達成されたと言える。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>資格試験の合格を目標としており、動機付けについて苦慮する面もあるが、専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ学生も相当数(平均3.8)いる。学生も一定の成績を収めていることから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

発言者が、後ろの席に座っている学生に偏っているという指摘を受けた。今後は、気を付けて前の席の学生にも注意を払いたい。授業中に学んでことについて、その日の授業中にテストをすることについては、賛否の意見をもらったが、次週に小テストをすると、学習してくる学生と学習してこない学生がはっきり分かれるので、今後も、集中力を高めるために、授業中にテストをしていこうと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業中に、自分の意見をグループ内で発言し、話し合い、発表する機会を作れたことで、責任感や好奇心が生じてきているようだった。（学生の参加機会についての平均値 3.9）今後は更に、授業の課題以外の自発的学習の充実にも取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course expects students to use the skills they developed in Years 1 and 2 to explore the areas of Active Learning, Student-Centred Learning, and Critical Thinking. The course has 5 parts. The first part introduces the concept of Active Learning. The other 4 parts have the students research topics of interest to them while exploring in more details the 3 areas mentioned earlier. They are expected to work autonomously in groups and to evaluate themselves and their peers in the process.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The students were generally well prepared for the class activities, having done significant research for the topics. Although the student-centred activities were expected to offer more of a challenge for the students, most of them stood up to the challenge. Of all the areas this is probably the one that needs the most work on their part.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1: Students were required to use the skills they have learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the various topics. They handled this well. DP2: This area could use some improvement. Some of the students were very passive about organising, planning and preparing for group activities. DP3: Generally, the students worked very well and achieved great results. DP5: The students developed their general English skills well.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although more preparatory activities were included in the initial stages of the course for the students to better understand the benefits of the program, this effect seemed to diminish as the course continued. Perhaps reiteration of the benefits at other points in the semester would be helpful.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

This course is primarily based on self- and peer-evaluation. The students, in general, have been quite proficient at this, although some more direction could be provided so as to improve this element further.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to builds on the skills the students learned in Year 1 and Year 2, and focuses on developing the students' skills in the areas of Active Learning, Student-Centred Learning, and Critical Thinking. The course is divided into 5 modules, and as the semester continues, the students take on a greater and greater role of planning and facilitating their own classes. Likewise with evaluation, they have to decide the parameters themselves and then both peer- and self-evaluate.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>In preparation for classes, guided activities, and group work, the students all did exceedingly well. Particularly with presentations, they showed real ability in putting together excellent presentations, practicing them, and delivering. They were confident, original, and interesting. Where they showed weaknesses were in the leadership and decision making of the courses and in areas of active learning, revealing their desire to be led rather than to lead. However, compared to the previous year, this class did extremely well!</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1: Students were required to use the skills they had learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the module topics. They handled this well. DP2: This area was weak. Many of the students were very passive about organising planning and preparation sessions. They were very happy to let others take over this role. However, as stated above, they did better than the previous year's students. DP3: As stated above, when given a task, the students worked very well and achieved great results. DP5: Aside from the leadership issues, the students developed their general English skills well.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For future courses I believe we need to spend more time on topic choice, as that was the crux of this class's success. They chose great topics. We need to make that a more intrinsic part of the course, especially at the beginning.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Likewise with last year, as this class is self- and peer-evaluated, no great changes are anticipated. We do, however, need to provide the students with more robust tools to build their assessment around. Although they were provided with a grading rubric, this need to be further broken down so they can evaluate their own progress better. This can be achieved in consultation with the students.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Academic English Writing	3・4	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年次から、Paragraph Writing → Creative WritingとWritingの授業を修了しているとはいえ、1年程度の期間でライティングの技術は向上するものではない。従って、Paragraph Writingの復習やEssayに対する基本的理解から確認しながら授業を進めた。最低限、アカデミックペーパーとして扱ってもらえる違いとして、リサーチと引用の仕方などは指導した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度初めて担当する科目で、何をどこまで教えることができるか、について大きな戸惑いがあり、学生側も、急に難しいことを要求されたように感じたかもしれない。まだまだ基本的な英作文すら十分に書けない状態の習熟度では、アカデミックライティングと呼べる内容の英文を仕上げるのは、難しい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科として、Academic Writingの科目を開講することは、当然必要である。しかし、一定水準のライティングスキルを持っていないければ、アカデミックペーパーを15週間で書くレベルに引き上げることは困難である。従って、前提となるParagraph WritingやCreative Writingで優秀な成績を収めた学生のみが受講できるような、スクリーニングをかけるほうが良いかもしれない。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

受講学生7名のうち、再履修学生が、4名であった。初めて受講する学生達は、満足なレベルまで上達したとは言い難いものの、こちらの指導にきちんとついてきて、一定の成果をあげた。従って、授業の進め方自体は大きく間違っていないと自己評価する。再履修学生については、もともと力不足のために再履修になったのであり、出席状態も芳しくなく、そうした学生は受講対象に含まれるべきではないと感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

この科目は、上記5で書いたとおり、一定のライティング能力をそれまでの授業で身につけた学生が受講できる科目として位置づけた方が良いと思う。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語研究 I	3・4	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は今年度初めて設置された科目で、応用時事英語からさらに発展させた内容という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語入門や応用時事英語のように時事英語を習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有できる機会を設けた。履修者全員がすでに時事英語入門や応用時事英語を昨年度受講していたため、科目の「差別化」を意識して授業を展開した。自由記述においても、「内容の濃い授業でかなり自分の力になる」「英語も時事問題も学べるので良い」などのコメントが寄せられたことから、新科目初年度としては概ね望ましい結果が得られたと認識している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1の知識理解に関しては、2回実施した小テストの平均点が、1回目：15点満点中10.1、2回目：15点満点中8.5とダウンしている点から、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されなかった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中7.7という平均値が出ている。これは受講者間で意見交換や発表に差異が生じたことが一因であり、受講者全員の満足度アップなどを図るうえで今後の課題といえる。その反面、定期試験については、50点満点で平均が37.7と素素の小テストに比べて大幅に改善しており、中には高得点を獲得した学生もいた。そのことが奏功して、全体的な評価の底上げにつながった(総合評価の平均点：81.2)。この最終結果をも踏まえて、教育目標はやや達成されたという結論に至った。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。しかし今回の受講生は、全員が本科目の下位に位置する時事英語入門や応用時事英語をすでに学修済みであったため、昨年の時事英語に対する知識や知見が活かされていた。そのおかげで、内容に対するディスカッションや意見交換もある程度実現できた。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

ターム期間中に2回実施した小テストの正答率が低かった点が懸念材料である。内容がこれまでの時事系科目よりも難しくなったため、覚えるべき単語などのレベルが必然的に難化したためである。学生からのコメントにおいても、「2年生のときにうけた時事英語入門より、内容は難しく小テストも苦戦した」という記述があった。取り上げた記事の本数自体は少ないが、社説などの論説記事をあつかったためである。その反面、定期試験の結果はおおむね良好であった。学生が復習をしっかり行って試験対策を講じたからである。今後の課題としては、試験前に復習などの時間を意識して創出し、学習した内容の理解・定着強化を図ることもひとつの改善策と考えている。また、「とどき、授業のペースが早かった」というコメントも寄せられていたので、時事英語の最上位科目という枠にとられすぎることなく、他の科目同様、受講者の理解度や達成度を適宜確認しながら、授業を進めていかなければならないと認識している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門および応用時事英語で学習した成果を発展的レベルにまで上げるといった目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、小テストの高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、英語での自己発信を積極的にサポートできるような体制も今後構築していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用ビジネス英語	3・4	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期ビジネス英語入門同様、極めて実務的な側面の強い学習領域であるのと、学生が卒業後に実際にふれる機会が想定されることを考慮して、ビジネスの現場を反映した英語を提供することに重点をおいた。また、教科書に沿って網羅的に授業を進めるのではなく、自己のビジネス経験や最新のビジネストレンドなども織り交ぜながら、単に英語のみならず、ビジネスという分野を多角的にとられるように授業の展開に工夫をこらした。具体的には、ビジネス英語を学習するだけでなく、それが実務ではどのように活用されているのか、また、その単語に関連した派生語なども一緒に紹介することで、学生が効率良く学習できるようにこまめな板書を実践した。さらに学習した成果が確実に受講生に定着しているかを数値的に確認するために、開講期間中2回小テストを実施した。出欠に関しては、ルールを前期同様初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。くわえて、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度のポイントが消えるおそれがあるなど、平素の学習意欲や態度が結果に直結する点も再度周知徹底した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>入門クラスと同じように、まず出席したうえでの授業貢献度（配点：20点）という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行い、クラス全体が活気あふれる授業となり、非常に有効だった。発言の順番などの指名に関しては、特定の学生に偏向しないように注意をしたが、前期よりも受講人数が少なかったことも奏功して、結果的にほぼ全員が何らかの形で発言をしたため、この項目の平均値は12だった。これは欠席をする学生がほとんどおらず、欠席回数も1～2回程度であったことも関係している。小テスト（配点：15+15=30点）に関しては、前期よりも教科書の難易度が上がったことも影響して、1回目の平均値が6.9、2回目は7.7という結果であった。授業貢献度ではほぼ全員が何らかの形で発表をしたが、筆記試験においては、学生間で得点差が大きかった。この点に関しては、テストの前の週などに復習などの時間を導入するべきであったと考える。定期試験（配点：50点）に関しては、小テストとはほぼ反対の結果が出た。こちらからある程度形式などを事前に説明していたが、小テストに比べて結果が大幅に改善した（平均値は50点満点中36点）。</p>					
* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>ビジネス英語においては、業種・業態に関係なく共通して必要な単語などが数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、などの項目において、全員が「そうだと思う」の項目を選択していることや、数値的にも小テストに比して定期試験の平均点が大幅に向上した点からも、内容的に妥当であると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

履修者全員がビジネス英語入門を受講していたので、授業の進め方や評価方法などを一から説明する必要がなく、学生とスムーズにコミュニケーションを図ることができた。決して少ない人数ではなかったが、いい意味で学生との距離が短く、授業を進めるうえで、確認や意見交換などのやりとりが非常にやりやすかった。その反面、授業の質評価の項目中、授業の記録に関して、記録をしなかったを選択した者が25名中3名、また5名が主に配付資料に記録したを選んでいった。担当しているすべての授業では、専用ノートを準備し、ノートに予習した内容や調べたことや演習問題の解答を記入するように心がけ、教科書には一切書き込みをしないように指導しているが、その指導が文字通り隅々まで行き届いていなかった。あらためてノートの必要性を説明すると同時に、今後はノートチェックなども抜き打ち的に行いたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標は達成できたと考えている。学生からのコメントでは、「授業が身になって楽しいので、時間をもう少し長くしてほしい」「説明と話の展開が面白かった」などの記述があった。ただし、前述のとおり、学生の学習体制がこちらの意向を反映したものになっているかを適宜確認する必要性も痛感している。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習 I	3・4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生にとっては初めて学ぶメソッドが多いので、初日の授業では、課題の取組み方、学期末に提出するもの、期末試験についてA4一枚にまとめ、学期を通して参照するように伝えた。シラバスの内容を確認しながら、どのようなメソッドを使うか説明した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>新たな視点を得たと感じた学生が「わりに」7名と「かなり」7名で9割弱が概ね達成したと感じたようだ。学びを深めたいと感じたかについては「わりに」7名と「かなり」6名で8割の学生が意欲的に取り組めたようだ。受講生のやる気を維持し、今後も自律的な学習になるよう工夫を重ねていきたい。さらに、知識理解度を高めるために、学生と双方向の議論を深めていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。英語の発話力や表現力でまだ課題があるために、日本語で意見をまとめた上で、英語で言い換える練習を行った。自由記述に「難しかったが、ためになった」とあったように、学生にとっては英語で自分の意見を言うことは難しいことではあるが、学期の後半では多くの学生が英語を使うことに慣れてきたように思う。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

課題が多いクラスであるが、大半の学生が準備と復習をしっかり行っていた。授業の進め方については、課題の目的と方法をなるべく事前に明示するように努めた。文法説明も英語で行おうとしたが、文法用語の問題と授業の進行との兼ね合いで、日本語の説明が多くなり、今期も課題として残った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生がメソッドに慣れ、授業形態に慣れるにつれてテンポよく引き締まった授業ができたように思う。今期は思考力の向上に着目し、学生との双方向の議論を積極的に行った。また、講師の誘導が必要で自律的に議論ができるころまで至っていないが、教材の深読みの面白さを共有できたのではないと思う。これらの議論をその場で通訳したり、英語スピーチにまとめる機会を増やすなど、今後もさらに発展させていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学研究	3・4	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業は、文学の上級学習者を想定したもので、テキストの内容やレポートはハードなものになることはオリエンテーションで伝えたので、やる気がある学生だけが選択した。毎回提出するレポートは一人一人に添削を加えて返却した。全ての学生は毎回のレポートや、予習もよく行い、真剣に授業に取り組んでくれた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価においては、一番平均値が高かった項目は「知識を確認・修正したり、新たに得ることができた」(3、6)で、低かった項目は、(9)(10)の職業に関する項目(2、8)であった。					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の質評価に於いては一番平均値が高い項目は「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4、1)であった。自由意見ではたくさんの方の肯定的な意見が見られた。レポートが大変だったことと、その分勉強になった、や、レポートが最初は大変時間がかかったが、慣れてくると短時間で書けるようになった、などの意見から、レポートの意義を再確認できた。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

図書館の利用はほとんどの学生がしなかったようだが（除く2名）、予習とレポートだけでも大変な量の授業であるという特質から、妥当である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

次年度もこのスタイルは維持していきながら、授業中に配る内容に関連した参考資料のプリントをもっと増やすなどの、準備を進めたいと思う。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	笹山 郁生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
統計学入門	3・4	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、英語学科の選択授業であるが、授業内容は「統計学」であるため、日頃、英語を学んでいる受講生にはなじみの薄い内容であると考えられる。そのため、授業内容について受講生に親しみをもってもらうことを目的として、毎回、受講生をグループに分け、授業内容をグループ内で確認し合うことができるようなグループワークを取り入れた。また、毎回、授業内容を復習するための課題を課すことによって、講義内容の定着を目指した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生の到達度についての自己評価結果を見ると、ほとんどの受講生は、多くの項目に対して、「まあまあそうだと思う」と回答していたことより、教育目標はある程度達成されたものと考えている。「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、「わりにそうだと思う」と回答していた受講生が46%いたのに対して、課題の提出状況が悪い受講生が昨年度より多かったり、総合点の標準偏差が昨年度より大きかったことから、本年度は、比較的授業内容をしっかり習得できた受講生と、授業内容がまったく理解できなかった受講生の差が広がってしまった可能性がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「統計学」であり、他の授業と比較して、受講生にとってはなじみの薄い内容であったと思われる。しかしながら、統計学についての基礎知識は、英語学や英語教育学で卒業論文を執筆する際に必要となる知識・技能であるとともに、教職に就く場合にも、教育評価の基礎となる知識・技能であるために、基本的な内容については身につけておく必要があると考える。本授業の受講動機を見ると、「関心のある内容である」と回答した受講生が35%、「資格取得に必要である」と回答した受講生が30%いたことから、本授業を学ぶことの意義については、ある程度、受講生に理解してもらえたのではないかと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本授業では、授業内容を確実に理解してもらうために、毎回の授業にグループワークを取り入れたり、毎回、復習課題を課すなどした。また、受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整した。その結果、「今まで統計学をやったことはなく、少し不安だったけど、勉強してみるとおもしろかったです。」などといった回答が受講生から寄せられるなど、授業内容をしっかり理解できたことみなしている受講生がいたことはよかったです。しかしながら、その一方で、「授業内容が難しすぎた」や「課題で手いっぱいだった」などの回答に示されているように、一部の受講生については、授業内容が難しすぎたようである。特に今年度は受講生により、理解度に大きな差ができてしまったようなので、来年度は、受講生間の理解度の差を小さくすることが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

毎回グループワークを取り入れたことにより、受講生は、ある程度楽しみながら、統計学の基礎的知識と技術を身につけることができたと考えている。また、本年度は受講生の理解度を考慮して、進度を調整した。そのため、推測統計、特に統計的仮説検定について、十分な時間を割くことができなかった。来年度は、受講生の理解しやすさを維持しながら、具体的な統計的仮説検定の方法についてまで説明する方法について考えていきたい。また、授業内容の理解に対する個人差については、多くの受講生にとって、授業内容を理解することができるよう、毎週課している課題の内容を見なおすことによって対応したいと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3・4	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は「関心がある内容である」が90.9%と高く、受講人数が13名と少なかったが学生は授業を意図的に選択し期待とモチベーションは高かった。モチベーションを持続するように工夫してテーマを与えた。</p> <p>②模擬面接では4年生は就職活動とリンクしているため真剣であった。3年生はまだ先のことであり、曖昧な態度や表現であったが、4年生に大いに刺激されていた。3年生4年生の混合授業の利点が見えた。</p> <p>④企業研究は、企業研究の見方、考え方、知識を就職活動中の4年生に必要且つ実践的に伝えた。3年生は来年の就職活動を踏まえ、企業研究の発表をした。同じ企業の発表にならないように、他の企業にも興味を持つように工夫をした。</p> <p>⑤グループ討議は2016年は1回実施、テーマが90分の授業では収まらなかった。次年度はグループ討議の時間を充分取れるように新しいテーマを用意した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①学生の授業評価アンケートに「色々な企業に興味をもってリクナビ等を調べた」「職種を調べるようになった」「職業選択の視野が広がった」とのコメントがあった。達成度自己評価において「職業選択の参考になった」が4.4点となり相応の点数であった。</p> <p>②企業研究発表(プレゼン)において、課題(知識理解・思考判断/DP1・DP2)をもっと深く掘り下げる事が可能であった。授業の質評価の「期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであったか」3.7点であり、もっと深く掘り下げるために課題をこれまで以上に学生が理解出来るようにあきらかにしていく工夫をしていきたい。</p> <p>③プレゼン能力(DP4)はチェックシートを使用・ビデオ撮影をして各学生にフィードバック。ビデオ撮影は2度実施。学生の達成度自己評価は3.9点で目標達成も「やや達成された」となったが、学生が想像している以上に相手に好感を与えて自己を表現することが難しいということが理解出来た結果の点数と考える。</p> <p>④「自分が学ぼうとしている専門分野」が3.7点～3.9点。学生によってなりたい職業がさまざまあり求めているものが違うため点数に現れたと思われる。どの職業にも必要な知識・能力を伝えているがそのことへの理解が進むよう工夫をしていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP、行動目標からみても内容的妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野」の到達度自己評価は比較的低かったが、どの職業にも共通に必要な知識と能力を学習していることへの理解が進めば内容的に妥当と考える。また「職業選択の参考になった」が到達度自己評価が4.4点からも、授業の方向性から内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②「とてもタメになる授業でした」3名の学生が自由記述していた。学生の意見からも授業の内容は妥当と考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①模擬面接・リクナビ/マイナビ課題提出・企業研究（課題提供）・企業研究発表・グループ討議を学生にさせる上で、学生が何を求められているのか、どのようにしたらよいのか等課題があきらかになるように学生が理解出来るように改善する。
②学習量では「1回30分程度の準備をした」が③が7名④が2名であった。①は2名、4年生は就職活動中であり就職活動との兼ね合いで発表できない学生には事情を考慮した結果と考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業に対する期待は大きなものと感じた。授業内容は学生の準備に委ねられている部分もあるがその期待に応えてくれたものとする。課題があきらかになるように学生が理解できるように確実に指示していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3・4	前期	選択	はい	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>貿易、投資など国際ビジネスの諸事象の実務的な仕組みを理解させること、最新の動向に関する情報を提供し理解させることに重きを置いた。また、国内外のビジネスシーンでよく使われる用語を多く説明し、理解してもらえるように努めた。就職活動でも役立ててもらいたいとの狙いもある。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が英語学科3.1、観光文化学科3.0なので、「全体を通して」および、下記の成績評価から、「やや達成」とした。「知識を新たに得ることができた」が英語学科3.2 (昨年度2015年度2.7から上昇)、観光文化学科3.1 (2015年度3.3から低下)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が英語学科3.2 (2.8から上昇)、観光文化学科3.0 (3.1から低下)、以上から「知識理解」を上記とした。「学ぼうとしている専門分野において判断する力を得ることができた」については、英語学科3.9 (2.4から上昇)、観光文化学科2.9 (2.9から変わらず)、ここから思考判断を上記の通りとした。「学びを深めたいと意欲」については、英語学科3.0 (2.6から上昇)、観光文化学科3.1 (3.0から若干上昇)であることから、「意欲関心」を上記とした。上記の通り、英語学科学生の到達度自己評価が観光文化学科学生を上回るという、昨年度と逆の数値となっている。これは、受講動機が、英語学科は32.3%が「関心のある内容である」のに対して、観光文化学科のそれは12.9%であり、関心度の違いから来ているとも思われる。また、それは次の通り、成績面での逆転にも表れている。すなわち、総合点平均は英語学科81.3点 (31名) (昨年度2015年度前期 72.9点 15名)、観光文化学科 74.8点 (39名) (2015年度 76.6点 52名)であった。</p> <p>・なお、英語学科の「態度 (DP4)」については、シラバス上該当しないので、削除しておいて頂きたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「ビジネスの領域についての幅広い理解と知識」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にはほぼ妥当と思考する。なお、本科目より後期「多国籍企業」の方が難しくなく(テーマ性があり)面白いとの学生の見方があるが、本科目「国際ビジネス論」は、国内外のビジネスの基礎的な諸事項の仕組みや理屈などに関する基本的な知識、社会に出てから必要とされる知識・考え方を伝えることに重きを置いているので、内容的には続けて参りたい。但し、学生に馴染みのある企業の実例をもう少し多く扱うなど、学生にとってもっととつき易いものにする工夫が必要かもしれない。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・学生からは厳しい批判を受け取った。「ひとりよがりな授業で、何を言っているのか、よく理解できなかった。タフな授業だった」「一人で話しているみたいで分かりづらい」などである。これまでで一番厳しいと言える意見であるが、真摯に受け止めて改善に努めたい。進め方として、質問票には丁寧に答えたつもりであり、また、授業中に学生を時々指してやりとりしたが、もっと多くやりとりを増やし学生の理解を確認しながら丁寧に説明することをもっと心掛けたい。今教材のどこを扱っているか、努めて確認しながら進めたが、また、WORDの教材の文字を1.3倍に拡大して画面表示したのだが、まだ分かりにくい部分があったのかもしれない。

・「プリントが多い」については、広範にビジネス全般を扱い少しでも多く基本的知識を伝えたいと思って配付しているが、学生にとっては消化不良なのかもしれない。貿易実務の部分など削除する部分を増やすことを検討したい。「プリントを先まで配りすぎ」については、予習してほしいのでそうしていることを理解してほしい。

・一点、教務課にお願いがある。今回の341教室は来年度は変えて頂きたい。縦に長い、PPT画面は(331と異なり)正面に一つしかなく、総勢70名の両学科学生が何度言っても前に座ってくれないこともあり、学生にとっては見えにくかったと思う。また、教員が使うPCを置く台から画面が見にくく、画面とPCの台との間に段差があって行き来があまり円滑にいかず、また学生の方に歩いて行きにくい構造であった。従って、学生との授業中のコミュニケーションが取りにくいのは感じていた。

・学生の指摘に「テスト前のテストに関する質問にあまり答えてくれない」は当てはまらないと言える。テストの範囲、重点事項は「ここは大事」と授業中に何回か伝え、記述式問題については事前に注意点を十分伝えた。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。

課題は引き続き、分かり易い説明の強化であろう。「理解を高めて、期末試験では平均70点台後半となるよう」にしたいと昨年述べたが、今年度期末試験の成績については、英語学科平均78.5点(31名)(昨年度2015年度68.9点から向上)、観光文化学科71.4点(39名)(2015年度72.8点から若干低下)であったことから、狙いの一部は達成できた。また、一番大事な「説明は理解しやすいものであった」は、英語学科2.8(2015年度の2.3から改善)、観光文化学科2.8(2015年度2.8から変わらず)と若干改善したものの、不満足なものである。学生に伝わっていないことを十分認識し、本科目の授業の質の向上に重点的に取り組みたい。一部の学生にとっては、コース必修であり、学生の、特に英語学科の学生の関心度は小さくない(前述の英語学科の受講動機32.3%が関心による)ので、期待に応えていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	木沢 誠名

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3・4	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>航空産業のしくみ、課題などを総合的に教授した。なかでも実生活で学生が興味を持つテーマである「格安航空券」や「LCC」は、特別な「章」を設けて講義した。しかし、社会なテーマである「空港間競争」や「航空政策」などは、理解も深くなく、興味も薄いようであった。職業的興味喚起で、「キャビンアテンダント」や「グランドスタッフ」についてはDVD（テレビ番組から）を見た。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・毎回の授業で提出する「コメントカード」で明らか。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当と考える。</p>
--	----------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特になし。授業中に、観光文化学科と同じく、学生生活の送り方や社会貢献、就職などの話をする。その際、他大学のことや他学科のことを引き合いに出して鼓舞するのだが、どうも英語学科の学生はこれを受容しようとしていない。学科と学生の特性であろう。しかし重要な視点であり、英語学科長の話では、平素そういった話題を提起する教員がおらず、刺激を受けているのであろう、とのことなので、表現は変えつつも継続する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

前述のように、身近なテーマには興味を示すが、社会的テーマには示さない。学生のレベルに合わせて専門学校的な内容にして満足度を高めるか、それとも、大学らしい学問的、社会的レベルに引き上げる努力をして「不満足」を許容するか悩ましい。ちなみに、観光文化学科は、ほとんど同じ内容の「航空産業論」があるが、こういった矛盾はほとんどなく、学生に受容されている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育入門	3・4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 教職課程を履修している学生とそうでない学生では、背景知識に若干隔たりがあることが考えられるので、教育学や教育心理学などを学修したことがない学生でも理解できるように、専門用語の使用等については配慮した。また、教職課程を履修している学生には既習のことで、解説をするなどして、すべての学生が講義の内容を理解できるよう気をつけた。</p> <p>② ほぼ毎回、学修したことを確認するための課題を提出してもらい、学生の理解を深めるとともに、学修状況を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81点で、ほとんどの学生が標準的レベルに達し、再試対象者はいなかった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達しているのに、到達度自己評価については、「まあまあそうだと思う」と答えた学生が圧倒的に多く、これは授業中に学生に達成感を味あわせることができなかったからかもしれない。提出された課題については、フィードバックを行うなどして、学生が自分の学修の達成度を把握できるように工夫したが、十分ではなかったと思われるので、さらなる工夫を考えたい。</p>
---	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から学生の達成度に若干の開きが見られたが、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という項目について、1名が「少しそうでないと思う」と回答している以外は、どの項目についても「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、ある程度肯定的に受け止められていると思われる。評価基準については、第一回目と第二回目の授業で説明し、その後も課題を返却する際に説明するようにしていた。課題の評価基準については、口頭のみではなく文字でも示すことを検討したい。学習量の評価については、多くの学生が一定の予復習の時間をとっていた一方で、3割程度の学生が「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」という項目と「授業に参加するために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」という項目に対して0回と回答している。全員の学生が複数回にわたって課題を提出しているため、全員が予復習の時間を少しはとっていたと思われるので、30分以下の時間で課題をすませたということが考えられる。課題の内容について、時間をかけて取り組みやすいものにできるよう工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

半数近くの学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業選択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディネスや動機付けに大きな開きがあり、授業運営が難しい面があるが、ほとんどの学生は一定の成績を収めていることから、目標は概ね達成できた。しかしながら、学習時間の確保については十分ではなかったため、この点については、来年度に向けて授業の在り方及び課題の内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習Ⅱ	2	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 1年生で身につけた大学での学習に必要な学ぶ技術を駆使し実践を行なった。 ② パソコンのパワポの技術を更に進化させるべく、表作成やなどの課題を課した。 ③ 学生の自発的活動を促すべく、2回目のプレゼンでは、学生自身から課題を話し合っ決定させるなどした。 ④ 引き続きマナーを重視し、女子大生としての品格を上げるべく、学生同士で啓発しあうことを促した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>到達度自己評価においてはすべての項目が4・0以上、授業の質評価においてはすべての項目が、平均値4・3以上であり、実際の成績も落第者が一人も出ず、毎回ほぼ全員出席であり、秀・優を収めた学生が大半であったことから、満足のいく結果であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>自由記述欄に「だんだんとパワポを作るのが苦にならなくなった・楽しくなった」という意見がたくさんみられたことから、パワポを使っ発表に自信をつけることができた点においては妥当である。ただ学生の満足度とは裏腹に、プレゼンの内容について教師が目標としている内容に到達しているものは少なかった。パワポやプレゼンの仕方などの表面的な技量は、一年生からの基礎演習Iと合わせて飛躍的に上達したので、次年度は内容も深いものが発表できるように、指導していきたい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生からの意見については「この授業を通してグループワークの大切さがわかった」「グループワーク」では一人一人の団結力が大切だった」などの意見も見られた。基礎演習の完結編であるこの授業では、学生の自主性を重視して、プレゼンのテーマから、グループ編成の仕方、座席まで全て学生主導で学生たちが考えて行った。グループワークの経験を積む機会を提供できたのは良かったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

プレゼンテーションでは図書館の本を利用するように指示したつもりであるが、「図書館の図書・雑誌の利用」は22名が利用しなかった（利用した10名）。一方、インターネットを利用した学生は25名（利用しなかった7名）であった。来年は全員を図書館に誘導するなど、利用につなげたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①前年度まで通年の必修科目であったが、今年度より半期完結の「専門演習 I」（2単位）となった。必修であるため、受講動機は100%のはずだが、結果的には88.9%の数値になっている。</p> <p>②ゼミ募集段階（前年度の11月）で学生には授業内容の公開をして募集しているため、受講生はそのことを前提に履修している。全員モチベーションが高く、教員主体の強制課題が出しやすい環境になっている。次の③・④がその課題である。</p> <p>③リスニング力強化のため、これまで長年継続してきた課題を毎週課すことにした。</p> <p>④総合的な教養力養成のため、日刊紙の筆写（編集手帳、天声人語など）を課し、後学期の自己分析や面接対策の準備に備えることにした。</p> <p>⑤次年度の春からスタートする就職活動に機敏に対応させるために、毎週火曜日の読売新聞日刊より「就活ON」の輪読・解説を施すことにした。</p> <p>⑥その他、国際的視野・地域的視野に立って、世の中の情勢に関連する記事を新聞や雑誌などから紹介し、解説する準備をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体の成績の平均値は82点（昨年度は通年で83点）で、まずまずの結果だと言えよう。内訳は、秀1名、優5名、良3名であった。</p> <p>②15週の出席率は、9名中100%が4名、93%が4名、87%が1名で、全体としては、95.4%という高い数値となった。</p> <p>③到達度自己評価の10項目では、数の多い順に並べると、「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」「かなりそうだと思う」にすべて収まっている。</p> <p>④授業の質評価においては、数値が高い順に配列すると、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と鳴っているが、その差はほとんどない。</p> <p>⑤予習に関しては、9名中4名が6回、3名が4～5回と記しているのに対し、0回が2名いたが、宿題を課している以上この数値は理解できない。</p> <p>⑥復習に関しては、9名中1名が4～5回、2名が1回、0回が6名となっているが、前学期の授業は予習中心に動いていたため、やむを得ない。</p> <p>⑦授業の記録は全員1回以上取っていた。</p> <p>⑧シラバスの記載を参考にした者は7名、参考にしなかった者は2名であった。</p> <p>⑨図書館、データベース、インターネットのホームページなどの利用に関しては、利用した者より利用しなかった者の方が多かった。このことは、前学期の授業の流れにおいては、そのようなことをしなくても作業が可能であったためであろう。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本教科は「演習・研究」の中の科目で、3年次前学期必修科目（今年度より実施）であるため、授業回数は15回開講される。学科のCP-5では、「、、、、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する」ことになっており、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DP1～5における9項目に関しては、ゼミ担当者の授業の運び方によって流れは若干異なる可能性はあるが、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」におけるいずれの領域の内容も網羅できるような授業体制で臨んでおり、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①授業の進め方に関しては、これまで通年であったものを前学期・後学期に分けて、単位もそれぞれ2単位ずつ(前年度までは通年で2単位)とした。
- ②授業に関する学生からの意見は示されていない。
- ③授業の質評価において、「まあまあと思う」を減らして「わりに思う」と「かなり思う」の割合を増えることを期待する。
- ④学習量の評価では、予習0回という結果にならない注意が必要である。
- ⑤情報利用では、独自の授業の流れに関するプリントを配布していたので、全員が活用しているはずだが、シラバスを参考にしなかったという回答は奇異である。
- ⑥図書館利用などは、前学期の段階では、利用しなかった者が多くいても差し支えない。しかしながら、後学期からは徐々に増えていくであろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①DP-1～5にある9項目を満たすためには、国際的視野・地方的視野に立って総合的な教養力と幅広い応用力を念頭に置いた継続的な指導が必要になるだろう。1年計画の中ではまだ半分消化している状況なので、全体としては「やや達成された」という評価に至ったが、理想的には「達成させた」という評価に持っていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科に入学した以上、英語力を向上させる、という明確な目的に賛同した13名のゼミ生を対象とした授業である。</p> <p>通訳養成の訓練のひとつである、リピーティングを紹介し、訓練をほどこした。VELCやTEAPという外部試験を受験させ、自らの現状の英語力を把握させ、本気で英語力を向上させるためには、単に英語によるコミュニケーションの機会を増やすだけでなく、さまざまな訓練が必要であることを理解させた。全てが英語で進行する学会の月例会にゼミ生全員を参加させ、甘えの許されない英語空間を体験させた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	英語の達人と呼ばれる、国際社会で活躍する通訳や英語教育者が著した本を読ませ、Bookレポートして提出させたところ、ほとんどのゼミ生が、大いに感化され、英語力向上に向けて努力する意欲を高めたことが、うかがえたため。					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。</p>
--	---------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

リピーティング用に使用した教材は、ゼミ生の英語力では少し負担が大きすぎたかもしれない。もう少し難易度の低い教材を使用する余地はあると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

ゼミ生の数が例外的に多く、かなり不安を持ちながらのスタートであったが、概ね、こちらの指導を理解し、各自で努力をしたと評価できる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会等を学生自らが体験出来る機会を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>発表や提出物について、全員が標準以上のレベルに達していた。特に授業の中での取り組みについては、全員が熱心に参加し、きちんとした思考に基づき適切な判断が行えていた。</p> <p>学習到達度の自己評価については、全員がすべての項目について、「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、学生自らもある程度達成感を得られているものとする。</p> <p>学習量の評価については、学生によって予復習の時間に大きな隔たりが見られる。予復習について、取り組みやすくするためにより具体的な指示を与えたり、個別にアドバイスするなどの工夫をしていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」のいずれかを回答しており、授業の進め方についても概ね妥当であると考えます。授業の中で、調べ物をして発表をするという機会を設けているものの、半数以上の学生が図書館を利用していなかった。図書館の利用を促すためのガイダンスを行うなど工夫していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育目標については、概ね達成できていると思われるが、知識理解と技術表現の面では課題を残している。具体的には、知識理解の不足のために議論への参加が十分にできなかったり、技能表現の不十分さからプレゼンテーションの仕上がりに若干の問題が見られる。少人数で実施している授業であるので、それぞれの課題について、きめ細やかに指導していきたい。